



LIVABLE

～ 住みよい 魅力ある 誇れるまちへ～ 2016

2016年度 事業報告書

理事長報告

理事長 神垣 良子

2016年度理事長を拝命するにあたり、呉青年会議所として何を取り組んでいかなければならないのか改めて考えた。私は、呉のまちそして呉青年会議所が大好きだ。もっと元気なまちになってもらい、呉のまちや呉青年会議所について知ってもらいたい。今でも呉は住みよいまちだと思うが、さらに住みよいまちにしたい。改めてその思いを強くした。

その思いを、「L I V A B L E ☆～住みよい 魅力ある 誇れるまちへ～」というスローガンにのせ、6つの基本方針のもと事業を展開した。

< t r a n s m i s s i o n ～知ることからはじまる>

広報はとても重要な役割を担っている。どんなにいい情報があっても、それが人に伝わっていかなければ、まったく意味がない。多くの人に知ってもらえる事が出来れば、共感していただける人も必然と多くなるだろう。知らなければ何も始まらないのだ。

今年、広報はf a c e b o o kを活用し、懸賞方法を取り入れた事業告知を行った。最初は懸賞目的であったとしても、それをきっかけに事業内容を知り、多くの人に興味をもってもらい事業に参加していただけたと感じている。

また、台湾 高雄市での青年会議所大会においてブースを出店し、外国の方々に広島県呉市を知ってもらう場をつくった。呉のまちの風物詩である“やぶ”に扮しながら呉の情報や名産をPRした。さらに、広島市で開催された日本青年会議所の全国大会においてもブースを出店し、戦艦大和を活用した映像や名産をもって、全国各地のメンバーに呉のことをPRした。海外の方を含めた多くの方々に、呉のことを知ってもらうきっかけを提供できたと感じている。

< e x p e r i e n c e ～来てみて触って気づく>

まちの経済的衰退を救う手段のひとつは、観光業であると考えている。大和ミュージアムが2005年に開館して以来、多くの観光客が呉を訪れるようになった。しかし、大半は大和ミュージアムを訪れた後すぐに呉を離れてしまう。呉のまちには、もっと素晴らしいところがたくさんあるのに、もったいないことである。

そこで、新たに興味をひく魅力を創造し、既存の魅力に触れてもらう事業を展開した。「汐風クリエイターミックス」と題し、6月に音戸の空家を利用しクリエイターが展示販売を行った。市内から少し離れた情緒ある音戸のまちを“イキ”に粹返らせ、クリエイターが創造する新たな魅力を通して、音戸のまちの魅力に触れてもらった。この事業を通して感じたことは、この「汐風クリエイターミックス」が定着し、多くに知られるところになれば、まさしく滞在型観光の一助となるということだ。参加された方々はもちろん、音戸に

住む方々にも共感をいただき、多くの人が興味を持っていただける事業となった。

< s e t t l e m e n t ~はなれたくないまち、帰ってきたいまち>

まちが元気であるためには、若者が呉のまちにとどまり地域の力になっていく必要がある。呉のまちに住みたい、住み続けたいと思ってもらうことがなにより大切だと思う。そのためには、子どもにとって楽しいイメージのまち、良い意味で強く印象に残っているまちでなければならない。

「海の家～Children's Company～」は、7月、小学6年生の子どもたちに蒲刈の県民の浜で海の家を運営してもらった事業である。メニュー考案等の準備から料理販売まですべて子どもたち主体で開催した。オープン当日の2泊3日に加え、数回のミーティングや呉の名産材料の製造見学まで、子どもたちには夏休みの強い楽しい思い出として残るような事業とした。子どもたちが苦労しながら、しかしやりきった達成感を味わい、また遊ぶときには思いっきり海で遊んで楽しむ。小学生最後の夏休みに、呉ならではの忘れられない経験になったのではないだろうか。この夏の経験が、何年後か大人になって、必ず呉にとどまりたい、帰りたいと思う一助になると確信している。

< c a r e f u l ~心身ともに安心するまち>

呉は気候的にもとても住みやすいまちであると思っている。2001年に起きた芸予地震以降、大きな災害はない。しかし、だからこそ防災への関心や準備が万全に出来ていないのではないかと感じている。「まさか」の時のために、とっさに判断し動くための知識と方法を知っておく必要がある。

得てして固くなりがちな防災というテーマを、参加しやすくするため、ゲーム感覚で触れてもらえるように謎解きゲーム「なまず大魔王を封印せよ！」を8月に開催した。これは、呉ポートピアパークを活用し、防災にまつわるキーワードを追い、AED操作や消火器操作など、災害時に必要な体験をしながら、最後になまず大魔王を倒して防災への意識・知識を習得してもらうことを目的とした。参加された大半の方から、これからしっかりと防災について備えて行こうと思うという言葉が多く聞くことが出来た。防災とゲームを繋げることで誰でも気軽に参加しながら、防災意識や知識を得て、改めて災害に備える必要性について考えてもらうことができたと思っている。

< b o n d s ~仲間の絆を深め、輪を広げていく>

人の繋がりとというのは、言葉では言い尽くせないほど強く大きい。まちのためにと活動する青年会議所という団体は、この繋がりこそ大事にしていかなければならないと思う。そのために例会では月1回全員で顔を合わせ、意識や情報の共有を行う。これは、組織の基盤づくりであり、とても大切な部分である。義務的になりがちな例会を、楽しい時間を共有する場とするために、毎例会時には同好会や事業に関係したPRなどを行う極めて楽

しい時間“極楽タイム”を実行した。それにより、メンバーが全員出席をする100%例会も達成した。こうしたルーティンへの色付けや達成感を通して、メンバー間の交流や絆の醸成ができ、よりメンバー同士の繋がりが強い団体になったと確信している。また、新年互礼会、創立記念日例会や高知合同例会では、特別会員会の方々や高知の方々としっかりと交流することができ、こうした出会いがこれからのモチベーションになっていくだろうと強く感じた。

< i n c r e a s e ~多くの同志を求めて>

組織は人がいなければ存続すらできない。私の入会当初から言っても、呉青年会議所のメンバーは随分と減ってしまった。数がすべてではないが、今後存続していくため、そして呉のまちをより良くしていくためには、やはり数の力「マンパワー」は不可欠である。

2016年度は、30名もの新しい仲間が呉青年会議所の門をたたいてくれた。これは私が入会してからも例をみない数である。これは全メンバーが危機意識を持って取り組んだ、目に見える成果であると思う。青年会議所の諸先輩方の経験を聞く機会を持つことで、我々が青年として青年会議所の一員としてなぜまちのために精力的に活動していかなければならないか気付き、明るい豊かな社会の実現に取り組んでいく決意、覚悟を決めていただけたと思っている。また、2016年度スタート時の47名全員で、仲間となるべく30名を導いていけたことは新入会員だけでなく、既存のメンバーにとっても責任感に・使命感といったところに良い刺激を受けることができたのではないだろうか。30名の新たな入会は、必ず呉青年会議所の大きな力となると感じている。

2016年度は、日本青年会議所の全国大会が広島で行われ、それに伴い、全国野球大会も主管した。全国大会、全国野球大会ともに、設営側として全メンバーで運営に参加した。メンバー全員がそれぞれの役割を果たし、やりきった大会であった。参加をされた方々からは、素晴らしい設営、素晴らしい大会であったとのお言葉を多くいただいた。

全国規模の運営に携われることは、そうあることではない。この経験は、今後の呉青年会議所活動においても必ず活かせる経験であったと感じている。

メンバーひとりひとりがそれぞれの責任を熱いエネルギーをもって果たしていただけたおかげで、2016年度は本当に素晴らしい年になった。确实により住みよいまちに近づいたと感じている。これも、理事を受けてくれたメンバー、出向をしてくれたメンバー、委員会を支えてくれたメンバー。すべての歯車がうまくかみ合った結果であると思う。誰ひとりとしてかけてはならなかった。すべての方々に深く、深く感謝したい。

1年間、「L I V A B L E ☆」に多大なるお力をお貸しいただき、本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 糸谷 知剛

L I V A B L E ☆ ～住みよい 魅力ある 誇れるまちへ～

このスローガンのもと、私はまちづくり委員会と広報委員会の2つの委員会を、副理事長として担当させて頂いた。

まちづくり委員会では、滞在型観光を呉に根付かせるきっかけの事業として、汐風クリエイターミックスという事業を音戸町で実施した。

特に印象に残っている事柄として、メンバーで音戸町の空家を清掃している際に地域住民より「我々もこの空家の荒れた姿を気にはなっていたが、今までどうする事も出来なかった。綺麗にして頂いて嬉しい」という言葉を頂いた際に、やはり地域住民や市が気付いていても様々な理由がありなかなか実践に移せない問題を解決するのがJCであると実感できた瞬間であった。また、事業が終わってからも、昔は漁師町として栄え、人に溢れていた音戸町を思い出した、という内容を綴った手紙が2通、3通と届くと音戸のまちのみならず、地域住民が持っていた地元に対する愛をも粹返らせたのではないのだろうか。

この4日間の事業だけで呉市に滞在型の観光が根付いた、と言い切る事はできない。しかし、地域住民に昔の賑わっていた姿を思い返させる事ができ、こうすればまた周りから人を呼び込めるのだという一つの方法が示せたのではなかろうか。

広報委員会では例年同様の呉青年会議所の事業広報に加えて、ASPAC台湾の地で呉の魅力を伝えるためのブース出展、日本青年会議所広島全国大会におけるブース出展と2つの対外事業を展開した。事業の詳細については委員長の報告を参考にして頂きたいが、呉青年会議所として6年ぶりの海外事業という事で、国内とは違った準備等、今後また海外で事業を企画する上でも大きな経験になったのではなかろうか。

1年を振り返り、猪突猛進型の両委員長に振り回され、JCのルールとの調整に悪戦苦闘しながらも終わってみれば、素晴らしい事業ができたのではないだろうか。

副理事長として1歩2歩でも先回りしてアドバイスができていたらもっと充実した事業が出来たのではないかと自分の不甲斐のなさに反省をしている。

しかし、この1年で自分の視点に無かった数多くの経験をさせて頂いたのも事実である。このような経験をさせて頂き、渡邊委員長、山崎委員長、そして呉青年会議所のメンバーに感謝すると共に、この経験を後世に伝えていきたいと思う。

副理事長報告

副理事長 中西 康二

本年度会員拡大と定住というテーマでのまちづくりの2つの委員会を担当させていただきました。会員拡大は本年度とうとう50名を切る人数でのスタートとなり絶対に成功させないとならない課題でした。当初我々は20名という数字を目標にしていたのですが、委員長から30名入れましょうと力強い言葉が返ってきて我々は30名という目標に向かって活動してきました。周りからは無理だろうと思われていたかもしれませんが、なぜ過去最高の新入会員の獲得に成功したのでしょうか？それは委員長の情熱です。絶対に30名入れるんだという強い気持ちで呉JC全員を巻き込み、全員で取り組んだからです。

今後も今年の数に安心することなくメンバー全員で会員拡大に取り組んで呉JCを再興していただきたいと思います。

本年度おこなった定住をテーマに行ったまちづくり事業はすぐに効果が得られるものではありませんが一番効果がある事業だったと思います。子どもたちに一生忘れられない心に衝撃をあたえる体験をさせることでこの呉の町こそ自分たちの故郷だと思ってもらう。

企画、準備から子どもたちに考えさせ長期間にわたる事業で大変なことも多かったです。きつこの事業を体験した子どもたちが将来、自分たちの故郷呉に帰ってきて住み続けて行ってくれると思います。

最後になりますが今年度副理事長という大役をさせていただくことになり、本当に自分にできるのか不安でしたが榎田委員長の情熱と国久保委員長の発想力のおかげで素晴らしい一年を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 神田 真生

2016年度、呉市民に防災に対する意識を持ってもらい知識を得てもらい、まちづくりの『ラブライフ！委員会』と、呉青年会議所の根幹となる総務である『交流の架橋総務委員会』を担当させていただいた。

その副理事長を拝命するにあたり目標を立てた。それ以前までの目標は意識さえしておけば自分1人でできる事ばかり、例えばスタッフの前では常に笑顔でいる、少し背伸びしてみても自分の思っているよりも少し上の事をするなどであった。

そこで、今年度は大きく2つ、自分1人では絶対に達成する事ができない目標を立てた。

1つは、ラブライフ！委員会において、住井委員長の全力を出させる事。委員長をするまでの2年間まちづくり委員会のスタッフとして、もちろん全力でやっていたとは思いますが、彼の持ち味を考えると、どこか物足りなさを感じていた。予定者段階から、何度も議論しスタッフ、委員会を何度もして、素晴らしい事業を開催していただいた。事業終了後、目に光るものを見た時に、1つ目標を達成できたと感じた。

もう1つは、呉青年会議所の退会者を出さない事。交流の架橋総務委員会の井田委員長が「絆が強まれば、退会者はいなくなる。そのためにメンバー間に橋を架ける。メンバー間以外にも、様々な所に橋を架ける」と言っていたが、まずはメンバー間の絆を強くする事が最適と考え、極楽タイムなどの仕掛けをし、結果的には1人の退会者も出すことはなかった。井田委員長の想いが、1つの目標を達成させてくれた。

この2つの目標を達成し、直接的にでも間接的にでも、呉のまちの明るい豊かな社会の実現に、1歩でも2歩でも近づけることができたのなら、幸いである。

最後に自分のものはもちろん、担当させていただいた住井委員長と井田委員長が持っている全ての力、知恵を出し切るための1年を過ごさせていただいた。そうする事が神垣理事長の基本方針達成のため、呉青年会議所の成長のため、明るい豊かな社会の実現のためになると考えたからである。2人の委員長には厳しい事も言ったし、やりたくない事もやらせたかもしれない。それでもついてきてくれて、意図を読み解き、全ての力、知恵を出し切ってくれた委員長に感謝の気持ちをもって、副理事長としての年間報告とさせていただく。

1年間、本当にありがとうございました。

専務理事報告

専務理事 明神 政之

光陰矢の如しとはよく言ったもので、私は高校・大学時代にアーチェリー部に所属しておりましたが、弓というものは引く力を要するもの程、矢の射速が増し、射出角が小さくなることによって放物線が直線に近づいていきます。そうすると、的を狙って指を離れた後、最短距離を飛ぶため中心を射貫く精度も上がります。私は専務理事を拝命した後、強い弓を用意し、準備を万全に整え、2016年度を迎えたつもりでした。

理事、そしてメンバー全員で引かれた弓は、理事長の想いに狙いを定め、力強い矢を放ちました。真っ直ぐ懸命に、必死で飛び続けたその軌跡は、まさしく一年間を一瞬に感じさせるほどのものでした。6つの委員会が作り上げた呉のまちに確かな足跡を残した事業の数々、近年経験することのなかった全国大会・全国野球大会の設営、来年に控える周年を見据えた公益法人としての適切な組織運営、全てが、メンバー全員の力があってこそ成し遂げられ、2016年度を終えた今、見事に的を貫いたのです。

私をもっとしっかりしていれば、気持ちよく飛ぶことが出来、皆の苦労を幾ばくか減らすことも出来たのかもしれませんが。今にして思えば準備に妥協があり、矢の抵抗を増すことになっていたのかもしれませんが。しかし多くの方々に助けられ、教えて頂きながら、この一年間、呉青年会議所の専務理事という役職を通して、沢山のことを学び、成長させて頂きました。

最後に、このような機会を与えて頂いた神垣理事長、夜遅くまで側で助けて頂いた空本常務理事と原常務理事、遠くまで同行してくれた橋津セクレタリーと銭原セクレタリー、そして2016年度理事役員を中心とした呉青年会議所メンバーに感謝申し上げ、このメンバーと共に「L I V A B L E ☆ ～住みよい 魅力ある 誇れるまちへ～」という的を射貫いた掛け替えのない経験を、これからの呉のまち、呉青年会議所のために活かすことをお誓いし、報告とさせていただきます。

常務理事報告

常務理事 空本 壮平

2016年度、公益社団法人呉市青年会議所は、近年で最も少ない現役会員数47名でスタートしました。会員数の減少に伴い、年間予算も減少し、公益事業比率50%の達成と事業参加者からの登録料収入の確保、管理費の見直し等、公益に対する課題がたくさんありました。「明るい豊かな社会の実現」を掲げている呉青年会議所は、より多くの市民を巻き込んだ事業を展開する為には事業費を増やす必要があります。その為に、常務理事（会計担当）として、本年度は、特定資産積立額の一部を公益事業に移動しました。毎年、入会金収入を特定資産積立金として使用していますが、特定資産積立金に限度額が定められており、入会金を全額積立すると、限度額をオーバーしてしまうことから、残りの金額を公益事業に移動することにより、各委員会に少しでも安心して事業を遂行できるよう、僅かではありますが新たな方法ができ、呉青年会議所にとっても大きな財産と考えております。

2016年の活動方針をしっかりと理解し、各委員会の事業や活動が円滑に実施できるよう自分のやり方で活動してまいりましたが、初めての運営に携わり、分からないことばかりで、組織運営の大切さと各委員長との共有、現役会員の大切な会費を預かるという責任の重さを実感いたしました。また1年間にわたり、常務理事として職務を全うするなかで、呉青年会議所の組織として多大な影響を及ぼすことにも改めて痛感しました。私の職務は、この経験、学んだことを留まらせず、今後の呉青年会議所の発展にしっかりと次代に引き継がなければなりません。

最後に1年間、常務理事（会計担当）として拙い運営を暖かく見守って支えてくださった専務理事をはじめ、常務理事（公益担当）、セクレタリーと佐々木事務局員とたくさんのメンバーに協力していただきましたこと心より感謝を申し上げます。大変貴重な経験をさせていただきました。1年間ありがとうございました。

常務理事報告

常務理事 原 晃志

呉青年会議所の公益社団法人への移行は自然な経緯であった一方、会計等の規制を受けるようになり、行政庁の厳しい監督を受けるようになりました。2016年度は、公益社団法人格取得後、初めて行政庁からの定期立入検査を受けた年となりました。定期立入検査においては、より適切な法人運営のための改善指導をいただきました。これを真摯に受け止め、今後適切に対応していく必要があります。

当然のことですが、現行の取扱いを改善するに当たっては、当初考えられていた様々な理由や事情にさかのぼって検討しなければなりません。しかし、青年会議所の性質上、公益社団法人移行当時の経緯を知る会員は、年を追うごとに卒業していきます。今後、公益社団法人として盤石な運営をしていくためにも、公益社団法人移行の歴史、経緯もしっかりと引き継いでいく必要性を感じました。

また、これも当然のことですが、公益社団法人を冠する団体として、コンプライアンスを徹底する必要があります。先に述べた公益社団法人固有の法規制のほか、著作権や景品表示法等の法令への配慮も欠かしてはなりません。理事として、法令遵守の意識と知識を持っておく必要を感じ、事業計画の精査等に努めてきたつもりです。

これら経緯の引継ぎやコンプライアンスに対する意識、知識の引継ぎについては、理事のみならず、すべての会員において共有していくべきものであると思います。事業計画書、予算書、事業報告書、決算書の書類等については、第三者からの監査に堪える内容のものでなければなりません。そのためには、一部の担当者や理事だけでなく、すべての会員における資質向上を図っていく必要があります。今後の課題であると認識しています。

公益の担当者として、改善すべき点への取組みが十分でなかったものと反省しておりますが、今後も一会員として、引き継ぎ等を通じ、適切な法人運営に寄与していきたいと考えております。

出向理事報告

広島ブロック協議会 全国大会支援委員会 委員長
出向理事 井本 成一

2016年度、公益社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会へ全国大会支援委員会委員長として出向しました。当委員会の担いは大きく分けて2つあり、1つは全国大会開催期間中の運営支援スタッフの確保並びに適材適所への配置（第65回全国大会支援事業）、そして全国大会主管LOMとの共催事業（第65回全国大会における地域活性化から市事業）の実施でした。

まず第65回全国大会支援事業についてですが、目的は全国大会広島大会開催に際して、広島ブロック内会員会議所との連絡調整を進めながら、主管LOMに対して協力・支援し、円滑な大会開催につなげ本大会を大成功に導くとともに、広島ブロック内会員会議所の結束の強さを全国にPRすることでした。具体的な手法として、全国大会への人的支援並びにウェルカムレセプションでのPRを実施しました。人的支援においては、大会実行委員会と随時協議を重ね、日程別ファンクション別時間別の必要人員数をブラッシュアップし、広島ブロック内各LOMと連絡調整を重ねた結果、実行委員会からの要請人数に対する支援人数の達成率は99.57%となり、計画通りの人的支援を実施することができました。

次に第65回全国大会における地域活性化から市事業についてですが、目的は広島ブロック内各地域の魅力を来場者に存分に感じて頂くことにより、好奇心の再発掘を行い、各地域への行動意欲を即し、地域活性化に寄与することでした。具体的な手法として、今回のたから市はご当地スイーツというコンセプトを設定し、全国大会の大懇親会に合わせLOMごとにブースを設け、一般市民並びに全国から来られるJC関係者へ試飲試食として無料提供すると共に、当日販売や地方発送を実施しました。事業参加者にアンケートを実施したところ全般的に高評価を頂き、たから市の開催により、広島市以外の都市に注目を集めることができ、再訪の意欲を喚起できたと考えます。

当委員会の事業で共通していることは、様々な要因により事業構築がサマーコンファレンス後と、大会直前になったことでした。本番まで時間の無い中、広島ブロック内会員会議所の皆様には丁寧なご対応を頂き、そして、多くの方に助けて頂き、なんとか形にすることができました。そのお蔭をもちまして、本大会の様々なファンクションを通じて、広島ブロック内会員会議所の結束が強まったことは確実であり、その結束力をもって大会運営をサポートすることで、広島ブロック協議会の結束力の強さを全国にPRすることができたと考えます。

このような貴重な経験をさせて頂き、私自身にとって非常に大きな糧になったと感じていると共に、当委員会の事業に関わって頂きました皆様に感謝しております。誠に、ありがとうございました。

やっちよる呉委員会報告

やっちよる呉委員会
委員長 渡邊 聡

〔スローガン〕

魅力再構築

J Cの委員長になったとき、よく聞かされる言葉として「年内勝負」というものがある。これは、「事業を成功させるためには、委員長予定者である9月から12月までの年内期間に十分に準備をしておきなさい」という意味である。そのプレッシャーと、委員長になった嬉しさと気合で、年内に全てを終わらせてやろうと意気込んで活動してきた。しかし、「J Cとは何か」「理事会とは何か」を真の意味で理解しないまま全てを舐めてかかっていた私は、ことあるごとに考えの不足を指摘され、結果として何も決まっていなかった状態で年を越し、やがて第一回目の委員会を迎えることとなった。

このような状態に陥ってしまっていた私は、委員会のメンバーから何をやっているのだと叱責されると思っていたが、予想に反し、一から色々な案と一緒に考えてくれた。今考えると、自分の事業に本気で向き合い、妥協せず成し遂げられたのは、この委員会メンバーの優しさに触れたからであった。

事業の準備には、掃除を始め、簡単な修理、ペンキ塗りなど、すこしでもまちの粹返りを感じてもらえるスペースを作った。J Cメンバー全員には何度も集まっていたが、泥だらけになって用意を手伝ってもらった。このマンパワーがなければ、今回の成功は考えられなかった。

まちづくりは「若者・よそ者・バカ者」でないといけないと言われ、バカになり、音戸の地で出会う方、すれ違う方には常々挨拶をし、そして、空き家の持ち主の方にも空き家を貸して頂くために、精一杯のお礼の想いを伝えた。

事業が終わってからも地域の方々より是非、毎年実施してほしいという言葉を受け、車道沿いにあるお店は、20年ぶりにお店のテントをやり直し、確実に地元の意識改革を成し遂げる事ができた。

一年間本気で構築した事業は、色々な形として実績を上げる事ができた。人の為に、地域の為にと思い活動した一年でしたが、振り返ると自分自身の為に活動しており、色々な人に感動を頂いた。これからも明るい豊か社会の為に、音戸だけではなく、地元呉市民の為に活動していきたいと思う。

一年間ありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：2月例会（第1部）

日 時：2016年2月1日（月）19：50～20：19

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要(方法)：

まず、呉市の観光が通過型観光になっているという現状を呉青年会議所メンバーに把握してもらい、そこから抽出された課題に対して、滞在時間の延長につながる取り組みを事業として行っていきたいという当委員会の基本方針を説明した。

その他全国各地の事例を紹介し、各地が実施した通過型観光に対する打開策の事例を紹介した。その事例を踏まえたうえで、呉市において通過型観光という問題解決の為取り組みないといけないポイントを同時に説明した。

検証方法と効果：

委員会メンバー全員でプレゼンテーションすることにより、委員会の一体感が伝わったと思う。その一体感をベースとした当委員会の基本方針、呉市の観光の問題点を再確認してもらったうえで、他地域で「滞在型観光」を実現した具体的な事例を紹介することにより、我々が行いたい事業のイメージをしてもらい、事業への興味を持ってもらえた。さらに委員長自身が熱い思いを語ることにより、メンバーの共感を得、事業に対する期待をもってもらうことができた。



2. 事業名：4月例会

日 時：2016年4月4日（月）20：00～21：00

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

プレゼンのメイン部分をストーリー形式のVTR（「クリエイイル」）で作成し、試写会という形式をとることで、メンバーにインパクトを与えることができた。VTRの内容としては、まず呉市の観光の現状、問題、解決策を再確認してもらい、そのうえで、具体的な解決策としての事業「汐風クリエイターミックス」の紹介を行った。さらに、開催地の映像を流し、参加予定クリエイターの作品の現物を紹介することにより、メンバーに事業の具体的なイメージを持ってもらえた。そして委員長挨拶、副理事長挨拶により、メンバーの事業に対する共感、協力の意思を得られた。

検証方法と効果：

参加者にヒアリングをおこない効果を検証した。

何故、音戸なのかは、行って見たらわかってもらえると思い、動画を主に使用し、そこに飽きさせない為、映画試写会の雰囲気を作り上げ、例会を構築した。しかし、スクリーンを真ん中に持ってきての演出に見えにくいなどのクレームもあり、初めての事を取り入れる場合はもっと綿密にリハーサルをおこなわないといけないと感じた。

しかしながら、動画を用いることにより、どこで、どんな事をするのかをメンバーに理解してもらえ、事業へメンバーのかかわりを理解してもらえる例会となった。



3. 事業名：やっちよる呉創造事業

『汐風クリエイターミックス～音戸のまちを「粹返し」～』

日 時：6月23日（木）～6月24日（金）

※クリエイターの作品展示のみ6月25日（土）～6月26日（日）

場 所：広島県呉市音戸町坪井・引地・鯛浜（商店街エリア）

協力団体：

<参加幼稚園>

鯛浜自治会（音戸町鯛浜 事業開催エリア自治会）

引地自治会（音戸町引地 事業開催エリア自治会）

呉広域商工会（音戸町 商工会議所）
天仁庵（音戸町 店舗貸出及びエリア内折衝全般の仲介役）
倉橋保育所（呉市 キャンドル作成参加）
明德保育所（呉市 キャンドル作成参加）
波多見保育所（呉市 キャンドル作成参加）
音戸保育所（呉市 キャンドル作成参加）
警固屋みらい保育園（呉市 キャンドル作成参加）
呉あそか幼稚園（呉市 キャンドル作成参加）
焼山こぼと幼稚園（呉市 キャンドル作成参加）
桜ヶ丘幼稚園（呉市 キャンドル作成参加）
聖母幼稚園（広島市 キャンドル作成参加）

<参加クリエイター>

YUCCO（呉市 スクラップブックング）
FlowerTea（福岡市 ハーブクリエイター）
Candle Furu（呉市 キャンドルアーティスト）
Little witch（広島市 ハンドメイドアクセサリー）
muniart（呉市 絵描き）
クロクイデザイン（呉市 手ぬぐい・Tシャツ制作）
moji@rt（呉市 書道家）
野呂山商店（呉市 クリエイター）
岩屋工房・絵付けエリア（呉市 陶芸家）
Second Life A. and A.（呉市 雑貨）
CHA-BORN（呉市 手芸雑貨）
Handcraft-T（呉市 ペーパーアーティスト）
Nago（呉市 手芸雑貨）
ma-ko & ♡princess♡（呉市 革作家 & リバティ デコパージュ作家）
今田知佐子（江田島市 アーティスト）
Hacco（広島市 パーソナルスタイリスト）
着物 LAB（呉市 着物クラブ）
インド料理ラソイ（呉市 インドカレー）
Favorite Cafe（呉市 ケータリングカフェ）
甘茶書店（呉市 古本屋）
すみちゃん（呉市 古本屋）
カエルカバン（呉市 イラストレーター）
StitchHouse（呉市 子供服店）

若葉流つまみ絵 家元 (呉市 つまみ絵)
Anneau (呉市 花と雑貨)
atelier 壺 (呉市 陶芸家)
ウオーク社 (呉市 風呂敷ハンド)
Les jardins (広島市 焼き菓子)
Shou (広島市 グルーデコ・サロネーゼ)
Wool felt Tolico. (広島市 ウールクリエイター)

事業概要 (方法) :

広島県内外の著名なクリエイターの作品を集め、エリア内の空き家および空き地に展示してもらった。メインイベント日である土曜、日曜には、陶芸家による陶芸教室や、フラワークリエイターによるフラワーアレンジメント、書家による書アートなどのパフォーマンスを行い、同時に各クリエイターの作品の展示即売を行った。作品だけでなくクリエイター自身とも触れ合うことで、単に美術館で見るようなイメージではなく、よりクリエイティブな雰囲気を体感できる内容とした。

【来場者数】 約 2 4 0 0 人。

事業①展示および即売 :

- ・エリア内の空き家および空き地 (計 1 0 か所) にて展示を行った。
- ・空き家の清掃・簡単な修繕については、各空き家の状況に応じて J C メンバーに協力してもらった。
- ・電源の設置については、業者に依頼した。事業 2 週間前には完了した。
- ・メインイベント日となる土、日にはクリエイター自身に参加頂き、作品の即売を行った。
- ・平日に各空き家 1 名、休日には 2 名程度でメンバーに見守りを担当してもらった。

事業②パフォーマンス (体験型クリエイティブ) :

・キャンドル教室…キャンドルアーティストの展示エリアにおいて、土、日にキャンドル製作体験を行ってもらった。価格は 1 人 1 0 0 0 円で、1 0 0 人限定で計画し、参加者は 1 0 0 人と大盛況となった。

・陶芸体験…空き地にテントを設置し教室を用意、素焼きした陶芸品に参加者が絵付けをするという体験をしてもらった。その作品は、イベント後、本焼きして着払いにて郵送。先着 5 0 名で計 2 回 1 0 0 名 (土曜の午前 1 回と日曜日午後 1 回)。価格は 1 人 5 0 0 円で行った。実際の参加者は定員数の 1 0 0 人とこちらも大盛況で終わった。

・書道パフォーマンス…書家の作品展示エリアにおいて、土・日に各 1 回ずつ、書道パフォーマンスを行ってもらった。

・フラワーイベント…フラワーデザイナーの作品展示エリアにおいて、土・日に各 1 回

ずつ、ハーブティーアートのパフォーマンスを行ってもらった。

事業③キャンドルロード：

- ・旧商店街、及び裏道にキャンドルを並べ、「夜の隠渡小道」を作り上げた。点灯は土曜、日曜の18時から20時30分。
- ・並べるキャンドルについては、安全で、風に強く、見た目もかわいいアレンジを考えた。まずLEDキャンドルを1000個用意、そして竹を裏面約10センチ、表面約5センチで斜めにカットにしたものを土台とし、上記記載の幼稚園生に絵を描いてもらったトレーシングペーパーを巻き付けた。その中にLEDキャンドルを置いて並べた。
- ・幼稚園生の描く絵のテーマは、あまり制限を設けず、「海」「島」「大和」など、大きく「呉っぽい感じ」で各々自由な発想で描いてもらった。
- ・当日、完成品をJCメンバーで並べた。
- ・キャンドルロードの距離が約1キロメートルのため、片側2メートルごとに1個の割合で配置した。
- ・耐水性の素材（LEDキャンドル、竹、トレーシングペーパー）を使用するため、雨天決行。ただし、地形を考慮し、配置エリアを限定して行うことし、土曜日は実際に雨天エリアでの開催となった。
- ・事業終了後、灯籠で絵を描いてもらった部分は参加してくれた園児に返却した。

検証方法と効果：

来場者アンケートの集計結果およびメンバーの意見から、「新たな観光スポットができれば、呉市全体での滞在時間は増加する」「魅力的な展示品や体験型イベントがあれば、必然的に滞在時間も延長する」ということがわかった。ただし、今回は呉市内からの来場者の割合が高かったため、市外および県外から来た観光客に対しては、呉市内に留まってもらうために、「他の観光スポットより魅力的である」必要があると思われる。「食」を内包したものにするなど、より魅力的なイベントとなるような工夫が求められる。

一方、地元住民の意識改革を踏まえた地域の再興（＝粹返り）を図って地域に密着した事業を行うことにより、地域住民には「地元が盛り上がることの喜び」を体感して頂くことができたため、今後、地元の人達が自身により魅力を発信する努力をすることで、持続的な魅力の発信につながるであろうことを期待したい。

そして、「このあたりにこんなに活気があるのは本当久しぶりです」「ありがとう」という言葉は多くの地元住民の方から寄せられ、地元の方に「地元が盛り上がる喜び」感じ、地元への愛情とプライドを再確認して頂くことができた。さらに具体例として、結構大がかりな清掃を行った空家の近くにある店舗のご主人が外壁等の改装工事を行っており、「あなたたちがきれいにしているのをみて、うちもきれいにして頑張ろう

と思った」と言い、地元住民による主体的な「粋返り」にも貢献できた。

クリエイターの方も音戸の街並みに感銘を受けており、今後、同様のイベントが音戸の地で開催されるかもしれないという可能性も感じられた。

また、「1時間のつもりでフラッと来たけど結局4、5時間いた」とか、「（帰りの駐車場にて）今から倉橋の方の温泉に寄ってみようと思います」など、滞在型観光実現への兆しとなるような言葉も聞かれた。



P. R. KURENT委員会報告

P. R. KURENT委員会
委員長 山崎 寛太郎

[スローガン] 繋がる力、伝える力

2016年度、神垣理事長のもと、その所信である「transmission～知ることからはじまる」を念頭に、呉青年会議所がどのように地域と、そして世界と繋がっていくかを考えるにあたり、冒頭のスローガンを掲げた。

まずは注目し、知ってもらい、どんな魅力があるのか目にしてもらおう事を心がけた。市外、日本、そして世界からも注目されるような広報を発信する中で、呉の事を知ってもらう効果的な手法、しかもシンプルかつ深く心に残るもの、そして五感に訴えかけるものを宣伝媒体として考え、活動した一年間だったように思う。

具体的な活動としては、HPおよびFacebookへの事業記事の作成・掲載、Facebookを利用した、懸賞による各事業の広報、ASPAC高雄大会ジャパンナイトへのブース出展、そして全国大会広島大会における地域だから市へのブース出展と、幅広い地域をターゲットとした活動を展開させて頂いた。特にASPAC高雄大会へのブース出展は、国外での事業という事で、情報の少ない中で、委員会一同で模索しながら行った設営は、とても思い出深いものになったし、メンバーにもいい経験になったのではないだろうか。

会員数が50名を切る中のスタートで、マンパワーも多くは望めなかったが、少数精鋭のスタッフとフロアメンバーの皆、そして何よりメンバーの皆様が支えてくれたお陰で一年間を乗り切れたように思う。心よりの感謝を述べたい。また、全国大会でのブース出展においては、入会してまだ間もない新入会員メンバー達が、率先してブースの協力を申し出てくれた事は感謝に堪えない。彼らが、今後の呉青年会議所、ひいては呉のP. R. に力を発揮すると確信した瞬間であった。この場を借りて特に御礼を申し上げたいと思う。

年初に掲げたスローガンの中で、役職は一年間の限りある借り物であるので、RENTを入れたKURENTを委員会名に冠した、と申し上げた。自分なりにスタッフやメンバーと向き合い、お借りした役職をもって、呉を知ってもらうP. R. を一年という限られた時間、やり切ったつもりである。

理事長をはじめとするメンバーの皆様、ありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：2016年度総合広報ツール策定運用事業

日 時：2016年度年間を通じて

協力団体：無

事業概要（方法）：

公益社団法人呉青年会議所の活動、事業スケジュールなど幅広く情報を配信し、各公益目的事業活動を円滑に行う一助とする事を目的として、事業計画書及び会員手帳を含む総合広報ツールとして、2016年度（公社）呉青年会議所のホームページを2015年度版から引き継ぎ、管理運営を行った。

①ホームページに関して

主な変更点はトップページのスローガン、基本方針、所信及び挨拶、年間事業計画等とした。管理ページにて手軽にホームページの更新ができるため、タイムリーな更新をFacebookと連動して行う事を心がけた。

②会員手帳に関して

手帳に関しては2015年度同様、ホームページのコンテンツとしても盛り込んだ。名簿に関してはデジタルデータだけでなく、冊子として特別会員と現役会員、JCの関係各所に配布した。

昨年度と大きく変更した点として、五十音順索引の追加を行った。五十音順索引を加える事で、一番利用頻度の多いと思われる会員情報の平易な利用に繋げた。

③事業計画書に関して

関係諸団体には手交、または郵送し、ホームページへの掲載も行った。

検証方法と効果：HPアクセス数の比較を行い、またメンバーにヒアリングを行い、意見を集めた。

④ホームページに関して

呉青年会議所初の女性理事長という事で、女性らしい明るい色調を意識したもの、また和装をして青年会議所活動のP. R. に繋げた結果、PVで前年度比30%増を達成した。一方で記事更新のスピードは一週間という限度を設けたが、より早い更新を求める声が多かった。

⑤会員手帳に関して

五十音順索引を加えた点に関しては使いやすさが増した、と好意的な声が聴かれた。

⑥事業計画書に関して

ホームページへの掲載を軸とし、足繁く通う場所には手交して事業計画を関係各所に知らせる手法を取った。各事業遂行の際には、別途挨拶に伺った上で資料提出等やり取りを行っており、適正な手法だと感じている。



2. 事業名：年間広報事業

日 時：2016年の年間を通じて

場 所：適宜選定した

協力団体：無

事業概要（方法）：

各委員会の告知活動等を通し、募集活動の協力を行う事を目的として、各種メディア、各種団体窓口の連絡調整役を務め、各委員会と協力して広報を担当した。

各事業の広報を希望する委員会から書類およびチラシを紙資料、及びデジタルデータで受け取ったのち、広報を行う前に必ず呉市役所企画情報課へ話を通し、呉市や教育委員会の後援が必要な場合は事業概要や事業予定日等を相談した。また、市政だより・くれえばん・テレビおよびラジオ媒体といった各メディアに働きかける際に、校正原稿の提出締切日および決め事を各委員会に周知した。

次に、より効果的な広報活動として、facebook上で、抽選によるプレゼントキャンペーンを通じた「まちづくり各委員会の事業告知」を中心とした呉青年会議所の広報活動を行った。

呉青年会議所のfacebookページにおいて、抽選によるプレゼント記事を掲載する。申込期日を設け、締切り後に抽選を行った。

景品の送付方法は郵送とし、可能な場合は手交を行い、呉と呉青年会議所に関するインタビューおよび撮影をし、facebook記事としてアップし、更なる広報活動に繋がった。

facebook上でのプレゼント抽選に関しては、上記の内容をもって本議案を親議案とし、事業に応じたプレゼントを選定する都度、予算と共に、子議案3議案

を上程。子議案承認後、各事業告知等においてプレゼントキャンペーンを展開した。

f a c e b o o kにおける事業報告については、事業開催後7日以内での更新を行った上で、委員会内で進捗を確認し、事業写真を利用した上で独りよがりな表現を避けて、目にする一般市民の興味をそそるものを心がけた。

f a c e b o o kの管理権限は原則として広報委員会スタッフのみとし、当該事業の審議可決から事業終了までは事業担当委員会と綿密に連絡を取り、活発に投稿できるようにした。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効果：

委員会へ期日を周知する事で、期日の確認が容易で助かった。呉市や教育委員会の後援を頂く際には、上程資料などを校長会へ持ち込む必要がある場合があるので、その部分に関しても期日を把握しておいて欲しかった。

懸賞に関しては、新しい試みとしてよかった、景品の選定はその都度、担当委員会も交えて検討すべきである、懸賞開催後の告知記事をより充実させて欲しい、といった声が聞かれた。

また、当選者とのメッセージ等でのやり取り、また当選者への手交はプライバシー保護の観点から難しい場合が多い事が特筆すべき点として挙げられる。懸賞事業を行う際には留意したい点である。

「より効果的な広報活動」として、呉市内外の事業に興味ある市民より、コメント書き込みやシェア、いいねボタンでの参加という、「事業への自発的な関与」を行う事で、通常時を遥かに上回るビューワー数、いいね数を記事に対して頂き、アンケートによる検証の結果、一定数の来場効果を得ていた事を確認した。





3. 事業名：2月例会（第2部）

日 時：2016年2月1日（月）20：19～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：無

事業概要（方法）：

委員会の年間ビジョンをメンバーへ提示し、より精度の高い事業実施を目指し、意識の統一を図る事を目的として、2月例会において、以下の順にプレゼンテーション例会を行った。

1. 年間事業概要について

- ①総合広報ツールの説明。
- ②年間広報事業の説明
- ③呉魅力広域発信事業1，2の説明

2. 本年度広報活動の方向性について

- ①効果的な手法での広報活動
- ②情報提供の拡大

3. Facebookの効果的な利用について

Facebookをより効果的に広報活動に役立てるため、呉JCの行う事業にコメントをしてくれた人の中から、抽選で事業に沿ったプレゼントをすることにより、呉JCの事業に興味を持ってもらい、事業に参加してもらえるようになる、というFacebookの利用手法を説明した。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

広報の大変な面がよく分かり、広報とは何なのか考える機会になった。またFacebookを利用した事業は新しく、委員会として何がやりたいのかよく分かった。といった肯定的な意見の一方で、Facebookを全くやっていない人向けの広報についても含めた、全般的な広報活動についても聞いたかった。懸賞という手法

は商品が全面に出てしまう事が問題で、スパム広告のようで抵抗がある、といった否定的な意見も聞かれた。

委員会の年間ビジョンをメンバーへ提示し、より精度の高い事業実施を目指し、意識の統一を図る事が出来た。また、各委員会の事業に沿った広報活動の実施を呼びかけたことにより、委員長間での事業情報の共有について、再確認してもらう機会を設けた事で今後、各委員会との連携がよりスムーズに進むように意識共有が出来た。



4. 事業名：呉魅力広域発信事業1

日 時：2016年6月4日（土）21：00～24：00

場 所：JCI-ASPAC高雄大会・ジャパンナイト会場 高雄国際会議センター

協力団体：無

事業概要（方法）：

呉青年会議所が実施する公益目的事業及び呉の魅力をP. R. する事を目的に、JCIアジア太平洋地域会議（以下ASPAC）高雄大会ジャパンナイト会場において参加メンバーに役割を分担した上で、以下①から⑦の通り行った。

①「ヤブ」の紹介展示

呉における秋の風物詩ともいえる「ヤブ」を紹介するため、ヤブのアップが撮影された大版パネルを用意した。会場は混雑し立ち止まるのが困難なため長文の掲示物は避け、迫力ある写真と、それで興味を持ってくれた方用にQRコードで調べて貰うものとした。

②「ヤブ」によるパフォーマンス・記念撮影

上記「ヤブ」の面と衣装を日本より持参し、参加メンバーのうち2名が着用してパフォーマンスを行った。面は貴重品のため、日本青年会議所の保険を確認した上で手荷物として持参した。衣装は十分な梱包を行った上、航空便でホテル付に送付とした。衣装着用に際しては、事前に複数回練習日を設け委員会メンバーおよび着用者で練習を経た上で着用マニュアルを準備して臨んだ。当初はブース位置によって

会場外に着替え場所を設ける予定であったが、当日までブース位置についてアナウンスを貰えなかった事、また現地気温による着用者の体調管理、並びに周辺環境を考えあわせ、ブース横の空きスペースを利用して行った。会場内での動きに関しては着用者とヤブ付きと呼ばれる管理者各2名に任せた。会場内は夜間とはいえ予想以上に湿度と気温が高く、着用者の休憩時間に関してはフレキシブルに対応して貰った。

③呉の厳選日本酒試飲

ANAファーストクラスの機内酒に選ばれた呉の地酒2銘柄を持参し、試飲して貰った。現地への輸送は梱包の上、メンバーの手荷物として④のお菓子と共に持ち込んだ。また、現地気温を考え、当日まではホテルにお酒の保冷をお願いした上で、当日クーラーボックスで管理した。英語表記の掲示物を準備し、呉の地酒という事をアピールした。

④お菓子の配布

来場者の足を止めてブースを見て貰うために、呉で作られているお菓子を手渡した。

⑤呉観光案内（英語版）の配布

呉市の制作した英語版呉観光案内を配布した。

⑥呉魅力再発見事業作成物の掲示および開催予定事業のP. R.

過去事業で制作した呉の魅力をP. R. できるイラストや写真を掲示し、呉の魅力を紹介した。また、今年度呉青年会議所が実施する公益目的事業で作成したチラシやポスターを配布・掲示した。

⑦シール添付形式によるアンケート

3か国語でYes No形式の質問で書かれたパネルにシールを貼ってもらいアンケートを行った。

検証方法：参加メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。また、ブースにてアンケートを行った。

効果：

海外で情報が乏しい中、呉青年会議所ブースが1番ブースを取得し、また大盛況だった事はとてもやりがいがあった。お客様に「ヤブ」と「日本酒」が大変喜ばれ、呉の魅力発信に繋がった。といった肯定的な意見と、お酒の分量が適当でなかった。展示についてはあまり見られなかった。呉について、もっと分かりやすい説明の展示が欲しかった、など反省点に関する意見も頂いた。

アジア太平洋地域の方々と一緒に会するASPACという場に呉青年会議所ブースを出展する事で、呉のいいものは世界に出しても負けていない事を広く知らしめ、呉市域および呉青年会議所の活動を強く印象づける事が出来た。



5. 事業名：呉魅力広域発信事業2

日 時：2016年10月6日（土）18：00～20：00

2016年10月7日（金）17：00～20：30

場 所：広島護国神社内ステージ（10月6日）

広島県立総合体育館前サンクンガーデンスペース（10月7日）

協力団体：無

事業概要（方法）：

呉青年会議所が実施する公益目的事業及び呉の魅力をP. R. する事を目的に、第65回全国大会において日本青年会議所全国大会実行委員会が開催するウェルカムレセプションにおいて呉のP. R. を以下①から③の通りに行った。

①登壇

②呉のご当地P. R.

③登壇後、会場内でのP. R.

また、日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会の全国大会支援委員会が実施する地域たから市において呉青年会議所ブースとしてブース出展を、以下の通りに行った。

①飲食物の配布

②呉のP. R. 映像の上映

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。また、ボード式のアンケートを準備し、来場者に訊ねた。

効 果：

ウェルカムレセプションについて来場者から好評だった、たから市はアンケートが改善されていた、大和のVTRは興味をそそられるものになっておりよかった、といった肯定的な意見と、ポリッドスクリーンを新たな手法として最後までやって欲しかった、呉のP. R. として地図の表記が分かりにくかったように思う、といった否定的な意見も聞かれた。

呉において秋の風物詩ともいえる「いが餅」と、古くより市民に親しまれてきた「千福」の日本酒を無料で配布し、迫力のあるC. G. と音楽を使用した呉の観光ビデオを上映し、味覚と視聴覚で呉を体験する事で、呉に興味をもって頂けたと考える。また全国大会の会場で魅力のある飲食物を振る舞う事で広島に来た他LOMへ、副主管としてのおもてなしをすることができた。



6. 事業名：9月例会

日 時：2016年9月5日（月）19：50～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力者：森本勝也 氏

事業概要（方法）：

呉魅力広域発信事業の検証を行い、広報に繋がる地域の魅力発信について学ぶ事を目的として、現役会員、仮入会員を対象に、講師の講演形式で行った。以下①から⑤の通り行った。

- ①呉魅力広域発信事業1の事業報告
- ②委員長による趣旨説明（講師紹介も含む）
- ③講師による講演 テーマ『繋がる力、伝える力』
- ④記念品贈呈
- ⑤副理事長挨拶

検証方法：メンバーと仮入会員へヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

講師の方がいい意味で冷静で、とても聞きやすかった。青年会議所の目的を再認識した。委員長の人脈がなし得た講師選定だった、名刺交換の機会を作る配慮がよかった、という肯定的な意見と、広報について繋がりが少なく、また話が少なかった、上田先輩をお呼びした例会とかぶった感がある、今年広報委員会が行った事をメンバーにしっかりと伝える、手作りの例会の方がよかったのではないかと、といった反

省点についての意見が聞かれた。

講師には、事業の検証も含めた、地域の魅力発信へのアプローチを、自身の青年会議所活動を振り返りながら語って貰った。自分がどれだけの人を巻き込めるか、そして市民を巻き込んでいくか、対外的な広報の視点から、具体的な事例を交えて行われた講演から、我々が行うべき事業のヒントが込められていたように感じた。



7. 事業名：事業報告書作成事業

日 時：2017年3月

場 所：ホームページに掲載

協力団体：無

事業概要（方法）：

年間の事業活動の成果を総括し検証する事を目的とし、一年間の事業活動をもとにワードにて作成し、PDF化したものをホームページ上に掲載した。

配布については、ホームページに掲載後、現役メンバー、特別会員、関係諸団体に案内する事とした。

検証方法：ヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

資料としてキチンと事業報告書を残してある事が、次年度の役に立つ、1年間メンバーが事業を遂行した証を残してくれる事はよかった、といった肯定的な意見と、青年会議所の記録なので、製本までのフォーマットは出来る限り変えずに継続事業とした方がよいのではないかと、といった反省点についての意見も聞かれた。

年初に配布した事業計画書に基づき一年間に行った事業活動の報告を、現役メンバーならびに特別会員、関係諸団体に広く周知することで、青年会議所活動の理解を進め、次年度以降活動を行うことに対する更なる協力を仰ぐことへの一助とした。

WELOVEKURE委員会報告

WELOVEKURE委員会

委員長 國久保 純

[スローガン]

～若き心に衝撃を～

2016年度、定住というテーマのもとスタートした。定住という幅広い枠の中で何を
行えばいいのか、何が求められているのかなど考える事が多数あった。J C流にいうと目
的は何？手法は？根拠は？とはじまってくる。しかしそんな事よりも、まずは子供達の目
線にたって考える事が重要と思った。子供の時に大人になってもずっと思い出させるよう
な記憶が残れば、自分の足で自分の考えで自然とこの街に戻ってくる。心に衝撃が残る程
の記憶を残す事こそが自ら戻りたいという定住に繋がると考えた。単なる楽しい思い出だ
けでは弱い、厳しすぎる内容であれば自ら取り組もうとする子が少ないであろう。そこで
きっかけとして入り易く、また自分たち自らで考え行う事が出来る海の家運営という手法
にたどり着いた。

自分自身の考えの中では、考えきれなかった事を委員会スタッフ、委員会メンバーにし
っかりとアドバイスをもらい内容を固める事が出来た。また、今年は特に人数が少なかっ
た為、他委員会のメンバーにも委員会メンバーのようにフル稼働して頂いたお蔭で、運営
する事が出来た。更に自分が今まで長年のJ C生活の中で経験してきたこと、多くの先輩
から教わった事を出し切れた1年になった。

事業を通じて、子供達に呉の自然や食材の素晴らしさ、やれば何だって出来る気持ち、
呉にはこんなにもいい仲間がいるという思いなど多くの事を学んでもらう事が出来た。近い
将来、彼らが呉で活躍する姿を見たいと思う。

事業報告

1. 事業名：3月例会（第2部）

日 時：2016年3月7日（月）20：20～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

- ①VTRにて市の現状（人口減少、高齢化）を説明し、今後の呉市はどうかを説明した。
- ②毎年様々な問題に触れ、解決策を考えて事業を行うが実際10年前に事業に参加した子供達は、大人になりどういう気持ちでいるのか、当時の経験をどのように感じているのか、3名の方にインタビューを行いVTRにて流した。
- ③問題点を考え、子供達が10年前に経験し、話を聞いた上で当委員会が何を行っていかばいいのかを寸劇で伝えた。

検証方法：現役メンバー及び仮入会員にヒアリングを行った。

効 果：

インタビュームービーの後半の音が少し聞き取りにくく、グラフやデータを用いて説明すればより分かりやすかったと感じる部分もあったが、変重要かつ申告な問題である為に寸劇とパロディの動画で問題提起することで、ただひたすら数字をならべて注意喚起と警告をするよりも問題に取り組みやすくなってもらえたのではないかと思う。それらから何か楽しそうなことをやるのでは、という期待を持ってもらうことによって事業にも呉JCメンバーの興味を頂けた。



2. 事業名：7月例会 ～WE LOVE KUREインパクト事業 事業説明会～

日 時：2016年7月4日（月）19：50～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

- ① 3分間のオープニングムービーにて会場の様子や事業の雰囲気を伝えた。
- ② 例会の趣旨を副委員長の言葉で説明した。
- ③ 第1回から計3回の子供達の事前会議の写真を見ながら準備の様子を説明した。また、当日のスケジュール、メンバーの配置、注意事項などをパワーポイントにて説明した。
- ④ 委員会メンバー内で各委員会の担当を決め、各委員会テーブルにてより細かく説明をし、出欠の時間帯と日程を把握した。
- ⑤ 委員長挨拶にて、33名の子供達を見守る為にメンバー全員の力がどうしても必要だという事を本気で伝えた。
- ⑥ エンディングにて、音楽と共に事前会議での子供達の真剣な表情や笑顔あふれる写真を流し、最後にエンディングムービーで各グループに分かれた子供達から、メンバーに向けて当日絶対来て欲しいというメッセージを流した。

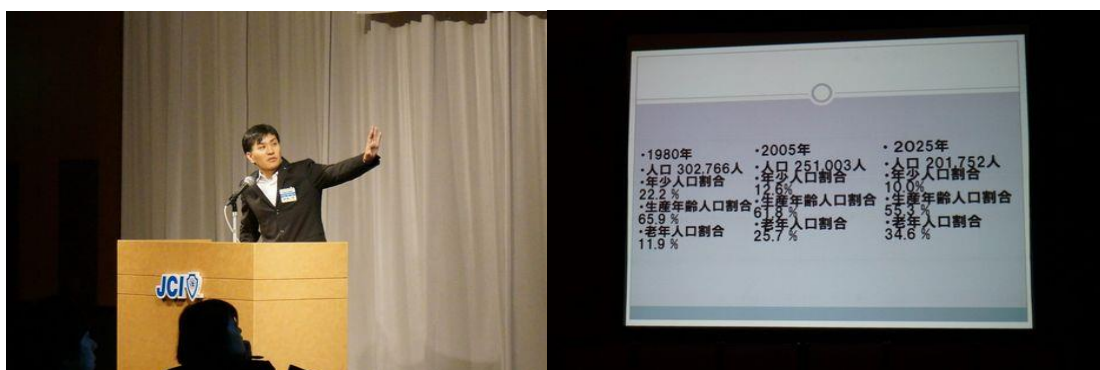
検証方法：現役メンバー及び仮入会員にヒアリングを行った。

効果：

例会の流れとしてまずはメンバーを巻き込む為に、オープニングムービーに強く拘り、ビーチボーイズを再現したムービーを作成し、笑いも交える事によって観る側も治入り込みやすく海の家イメージを伝える事が出来た。また、副委員長、委員長が本気で語る事によって事業に向けての覚悟が伝わった。

更に事業前に事前会議を2回行い、子供達原案のTシャツやチラシなどのデザインが決まっていた為、ボリュームあるプレゼンテーションを行う事が出来た。子供達の写真や動画を流すことによって、事業当日のメンバーの動員に確実に繋げられる事が出来た。

全体的に間延びする事もなく、スムーズに進める事が出来た例会であった。この例会を行えた事によって事業自体も問題なく進める事が出来たと考える。



3. 事業名：WE LOVE KURE インパクト事業

～海の家 Children's Company～

- 日時：①事前説明会 2016年6月9日(木) 18:00～
②第1回事前会議 2016年6月16日(木) 18:00～
③第2回事前会議 2016年7月2日(土) 11:00～
④第3回事前会議 2016年7月10日(日) 8:30～
⑤海の家 Children's Company
2016年7月29日(金) 13:00～7月31日(日) 18:00

- 場所：①二川まちづくりセンター
②二川まちづくりセンター
③二川まちづくりセンター
④大栄食品、県民の浜蒲刈 バスツアー
⑤県民の浜蒲刈

協力団体：なし

事業概要（方法）：

①事前説明会

参加者の保護者全員を対象に事業についての事前説明会を行った。事業までに決める事を話し合う為、計3回の事前会議に参加が必要な事、当日のスケジュール、安全面などを質疑応答形式により説明した。

また、次回事前会議で使用するデザインなどを宿題として、渡した。

②第1回事前会議

受付時にくじにて子供を11人ずつの3グループに分け、1グループに対し当委員会メンバーの責任者と2委員会を配置した。

店長・副店長は立候補にて決定した。決まるのが遅い場合にはJCメンバーが、やる気を煽り誘導するように動いた。

店長、副店長には各担当の委員会から補助をお願いし、困った時にはアドバイスをしてもらい、しっかりと役をこなしてもらえよう伝えた。

1グループにつき提供する飲食物は2品とし、販売商品リストの中から選んだ。他グループと被る場合は、じゃんけんにて決定した。

予め宿題とした、チラシデザインの中からグループごとに1枚選び決定した。

③第2回事前会議

販売メニューの調理・トッピングの選択・のぼりの作成を行った。

調理部屋が全員入らない為、2部屋借りてスムーズに行えるよう、調理をしない時間は別の作業を進めた。

選択したトッピングは個人投票数によって決定した。

Tシャツデザインは参加者全員のデザインの中から、1枚を投票で選んだ。

④第3回事前会議

バスツアーにて実際に食材を使用する細うどんの作業工程を大栄食品にて見学した。

蒲刈のレモン農家へ、駐車場から歩いて伺いどのように作られているのかを学んだ。

県民の浜で使用させて頂く会場内、外の清掃を全員で行った。

⑤海の家 Children's Company～

1日目、第1回から第3回までに子供達がグループで話し合い、自分達で決めてきた店舗装飾デザインを施し販売スペースを制作し、各グループの販売メニューを試作試食した。

2日目、3日目は告知チラシにて宣伝したお客様と海水浴場のお客様に向けて、子供達が飲食物を販売した。販売方法は事前販売チケットと当日販売チケットを購入してもらい、チケットと商品を引き換えとした。

2泊3日宿泊し朝から夜までスケジュールを組み、夜にはレクレーションとして天体観測や子供BARを行った。

朝にはラジオ体操、仕込み、朝礼を行った。

検証方法と効果：

事業のエンディングにて子供達から事業を終えての感想を全員の前で話してもらった。疲れたけど本当に楽しかった、仕事する事は大変だったなど様々な意見があった。また、親御さんからも忘れられない事業であった。6年生最後の夏休みに貴重な経験が出来たという言葉を受けた。

事業の中で、大人に頼らず自分達で考えて接客する事で、新たな自信もつき大人になってもここで学んだ事は確実に役立つであろう。

更にテレビ局が密着取材をしてくれた為、当日も緊張感があり非常にいい空気での事業を行う事が出来た。テレビ放送、事業のDVDを作成し発送する事によって事業が終わった後でも振り返って観る事でこの時の強い記憶が再び蘇る。大人になった時に我が故郷を思い出し、故郷を大切にしてもらいたい。



呉 J C 再興委員会報告

呉 J C 再興委員会
委員長 横田 丈洋

〔スローガン〕 呉青年会議所再興～新たなる同志と共に～

私は、新たなる仲間と共に青年会議所活動を切磋琢磨し、歴史ある呉青年会議所を再興するべく精一杯活動し、まさに新たなる風を巻き起こすことができたとして1年を振り返ってそう考える。

私は、呉青年会議所に所属し、数多く諸先輩方の教えや未来への可能性を胸に秘めて活動してまいりました。この経験という財産を、自己満足で終わらせるのではなく、新たなる可能性を起こす事の出来る仲間や若い世代に伝え行動していく為には、会員拡大活動を最重要項目とし、新たな同志を求め続けることであると信じて止みません。

過去最多入会数である30名という数字は誇らしいことである。しかし、これに満足しては決してならない。歴史ある呉青年会議所がこれからも、明るい豊かな社会を築きあげるためには、より多くの「英知」と「勇気」と「情熱」を持った同志が必要である。

多くの同志と出会えた今年度であるが、それと同時に現役メンバーから教育について多くの忌憚のない意見を頂戴する年でもあった。十人十色、様々な個性をもった同志であるため、様々なニーズが新入会員にもある。自分自身、多くを学ぶ事ができたが、1つだけ変わらない信念として「量は質に転化するが、質は量に転化しない」という事だけは今後も、会員拡大活動をするにあたって次のアカデミー委員長へ伝えていきたい。

新入会員も来年度から各配属した委員会にて活躍する事と思います。様々な想いがあると思いますが、この呉青年会議所は大人の塾でもあり、「自分からつかみにいかない」と何も得られない」と私は考えます。是非、自分から能動的に動き、有意義な J C 活動として下さい。

私自身も、過去からの素晴らしい歴史・文化を引き継ぎ、新しい風を巻き起こし、ハートが、心が、気持ちが明るい豊かな社会となるよう、率先して未来を切り拓いてまいります。

事業報告

1. 事業名：2016年度会員拡大事業

日 時：通年

場 所：呉市および呉市周辺

協力団体：無

事業概要（方法）：

拡大チェックシートにて現役メンバーの実情調査を行い、曼荼羅シートに記入していただき、入会候補者の選定を行った。会員拡大情報シートを各委員会に配布し、メンバーに記載していただき、LOM全体の問題意識の向上を図り取り組む事として、各委員会、個人にて目標設定を行って頂き、拡大宣言文に記載し会員拡大を濃密なものとしていった。

記載していただいたメンバーと綿密に打ち合わせをし、特別会委員の方々にもご協力頂き、ご紹介や入会候補者との接点をより密なものとし、今年度、次年度以降にも繋げるものとした。

また、理事会構成メンバーを中心に、現役メンバーと共に、20名以上の入会を最重要項目の目標と掲げた。

検証方法と効果：

目標20名を上回る30名の新たな同志が仲間に加わった。

呉青年会議所はこの数年にて、多くの卒業生や退会者があり、現役メンバーの人数が60名を切った状態であった。メンバー数が減少しマンパワーの不足により、事業や活動の規模や内容の縮小は否めないため、会員拡大活動は、LOMの最重要項目と考え、(公社)日本青年会議所の拡大成功例を基に作成された拡大資料を、呉青年会議所に見合うよう当てはめLOM全体や特別会員の意識向上を図り、会員拡大を継続して行う事ができた。ひとりひとりが我が事と捉え、アカデミー部門のみが会員拡大活動をするのでなく全員ですするという意識付けができ、尚且つ、実践することができた。

2. 事業名：1月第2例会（第2部）

日 時：2016年1月18日（月）20：20～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：無

事業概要（方法）：

事業骨子を明確にする事を目的に年間事業計画のプレゼンテーション、資料配布を行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

どのようにアプローチしたらいい分かりやすかった、拡大方法としてのやり方がわかってよかった、メンバーに対して拡大要請の方法がより詳しくわかったと会員拡大の具体的方法をメンバーへ伝える事ができた。また、会員拡大するという熱い気持ちを全委員会で共有できたと直接的な意見も頂き、会員拡大活動についてメンバー全員で共有し、メンバーの意識向上を図る事ができた。

3. 事業名：入会候補者面接1

日 時：2016年1月21日（木） 19：00～20：15

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：無

事業概要（方法）：

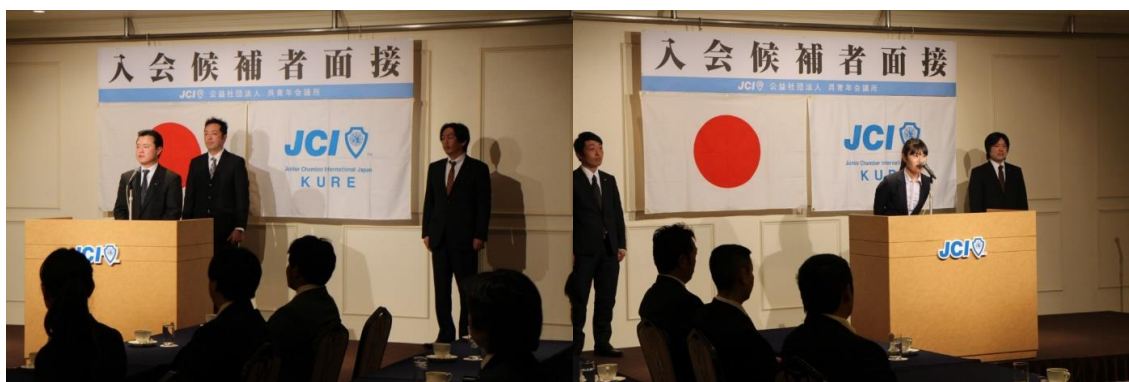
審査委員会においての入会候補者の審査査定の一助とする事を目的に行った。テーマを設けず、テーマを設けず、入会候補者が3分間スピーチを行い、候補者1人につき審査委員が2名質問を行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

伝統の厳粛な雰囲気の中、面接が行われ引き締まった良い面接だったという評価を頂ける意見もあった一方で、出来れば審査員以外のメンバーにも入会申込書の資料を配って欲しいと運営上のアドバイスも頂いた。

メンバーは開始5分前から着座していただき、私語を慎み、緊張感あふれる雰囲気の中で入会候補者に入場していただき、入会候補者・審査委員・現役メンバーの配席をコの字型として、審査委員・現役メンバー全員からの視線を強く受ける状態にすることを徹底し、厳粛な雰囲気の中で、入会候補者の入会適格性の審査を行う事ができた。



4. 事業名：仮入会員オリエンテーション1

日 時：2016年2月20日（土）18：00～19：00

場 所：ビューポートくれ

協力団体：無

事業概要（方法）：

仮入会員へ対し、青年会議所活動の概要、基礎知識の習得を目的に呉青年会議所の過去の事業紹介を交えオリエンテーションを行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

用語云々より、何をしていたかの事業紹介は仮入会員にとって良いと意見を頂いた。仮入会員にJC活動をするにあたり、必要な知識を伝えた。中でもJCがどんなまちづくり活動を行っているのかを伝えたかったので、呉青年会議所が過去に行った事業について動画等を交えて紹介した。必要最低限ではあるが、基礎知識・事業紹介部分でJCの概要がある程度理解してもらえたものとする。



5. 事業名：入会候補者面接2

日 時：2016年4月23日（土）19：00～22：10

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：無

事業概要（方法）：

審査委員会においての入会候補者の審査査定の一助とする事を目的に行った。テーマを設けず、入会候補者が3分間スピーチを行い、候補者1人につき審査委員が2名質問を行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

前回よりも多い20名の面接ということもあり、面接時間が長時間に渡ったが、前回同様、厳粛な雰囲気で行われてとても良かった、時間が長い中最後まで厳粛な雰

囲気がありとても良かったと評価頂いた。

メンバーは開始5分前から着座していただき、私語を慎み、緊張感あふれる雰囲気の中で入会候補者に入場していただき、入会候補者・審査委員・現役メンバーの配席をコの字型として、審査委員・現役メンバー全員からの視線を強く受ける状態にすることを徹底し、前回同様、厳粛な雰囲気の中で、入会候補者の入会適格性の審査を行う事ができた。



6. 事業名：仮入会員オリエンテーション2

日 時：2016年5月1日（日）10：30～11：30

場 所：ビューポートくれ

協力団体：無

事業概要（方法）：

仮入会員へ対し、青年会議所活動の概要、基礎知識の習得を目的に呉青年会議所の過去の事業紹介を交えオリエンテーションを行った。

検証方法：メンバーと仮入会員へヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

前回のオリエンテーションを踏まえて、VTRをただ流すのではなくコメントや説明を交えての内容になっていて飽きずに見ることができた、前回と同じ内容だったが、前回と同じテンションでだれる事なく、委員会メンバーが説明していて良かったと、仮入会員オリエンテーション1と同じ内容ではあったが、工夫し運営を行えた。また、仮入会員からは、動画や画像があって楽しく見ることができた、短い時間だったので全て理解したとは言えないが、今後学んでいこうと思う、といった前向きな意見を聞く事ができ、JCの概要がある程度理解して頂いた事に加え、入会意欲の向上が図れたと考える。



7. 事業名：6月例会 ～熱きJAYCEEとなれ～

日 時：2016年6月6日（月）19：50～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：上田博和 氏

事業概要（方法）：

仮入会員及び現役会員に公に尽くす心を醸成する事を目的に、（公社）小田原青年会議所のOBである上田博和先輩をお招きし、講演を行って頂いた。他者のために生きると必ず自分に還ってくるという「利他」の考え方の基、「個より公」ということを講師の実体験を基にお話し頂いた。また、現役のときは会員拡大に特に従事され、JCを卒業されてからは夕張市の再生に携わっておられ、現在も各地を講演活動するなど活躍されている体験を基にして頂いた講演は、仮入会員はJCに対しての理解を深め、現役会員はJCをもう一度見直す契機となった。

検証方法と効果：

メンバーと仮入会員へヒアリングを行い、意見を集めた。

- ・自分にできる事を考える良い機会となった。
- ・商売の方法、「損をして得を得るといふ」、新しい考えを学んだ。
- ・JCに対して期待感と大きな可能性を抱くことができた。
- ・内容が幅広く、ユーモアもあり、しゃべり方もメリハリがあつて聞いていて飽きない講演だった。
- ・仕事もJC活動も何もかも人一倍熱い思いで行動されているすごい方だと思った。
- ・「JCが最後の砦なんだよ！」という言葉がとても印象に残った。
- ・改めて青年会議所活動とは何か、考えさせられた。
- ・本当にしびれる講演だった。
- ・夕張再生のニュースは知っていたが、実際にどのような流れで行われたのか、生の声が聞けて面白かった。

と様々な意見を頂いた。講師の仕事や青年会議所活動、現在も活動中の夕張市再生

など、多方面にわたる講演内容により、JC活動の意義・取り組み方、社会と関わっていく重要性、仕事、そして自分自身の生き方などを参加者が改めて考え直すきっかけになったのではないかと考える。



8. 事業名：呉JC再興セミナー

日 時：2016年9月25日（日）10：00～11：45

場 所：ビューポートくれ

協力団体：堀口悟史 先輩、河内康浩 先輩、松岡秀直 先輩

事業概要（方法）：

仮入会員への人との繋がり大切さ、協力心、歴史を共有していく事を目的に、呉青年会議所特別会員である堀口悟史先輩、河内康浩先輩、松岡秀直先輩をお招きし、講演を行った。堀口悟史先輩が作成された「JCで一皮むけた経験」、上田博和先輩著書の「行動力」、「国歌、JCIクリード、JCIミッション・ビジョン、JC宣言・綱領、JCソング、若い我等、明日のために」を録音したCD-Rと、One Heart こどもミュージカル in 呉 2016のチラシを講演会で内容を説明する一助として事前に仮入会員へ配布した。

検証方法と効果：

メンバーと仮入会員へヒアリングを行い、意見を集めた。

- ・堀口悟史先輩のJCで一皮むけた経験の話の中で、やりたいこととやるべきことを繋げることで、JC活動が楽しくなるという話をお聞きし、仮入会員の間にやりたいことを見つけ、やるべきこと、やりたいことを繋げ活動をしていきたいと感じた。
- ・河内康浩先輩のOne Heart こどもミュージカル in 呉の事業を通し、我々にこれから地域とどのように向き合っていくのかを考えなければならない、と伝えてくださった。
- ・松岡秀直先輩のことばからJCは大人の塾なので、人が教えてくれるものではない、自ら学ぶ場所だと思った。JCにいる中で何ができるのか？なんのために、

誰のために、何をするのか、何ができるのか自分と向き合いながら考えてみようと思った。

と、各先輩の経験からお話頂いた内容について、仮入会員も様々な気づきを持った。現役時代に様々な役職をご経験されている3名の特別会員の方に、青年会議所活動をしていた当時の苦労や思い、そしてその経験について現在はどのように感じるのか、実体験を基にお話をしていただいた。身近な呉の特別会員ということもあり、よりリアルに青年会議所活動についてイメージして頂くことができたのではないかと考える。



9. 事業名：10月例会

日 時：2016年10月3日（月）19：50～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：無

事業概要（方法）：

インターン期間で学び感じ得た事を、新入会員が一丸となり、様々なデータやアンケートを収集し、プレゼンテーションを行った。内容としては本年度理事長所信を読み解き新入会員が感じた事、そしてJC活動を経験して感じた事を基に、健全で充実した生活が営める地域社会の形成を願い、呉市民との協働による街づくりの一環として、コミュニティFM放送局を立ち上げるというものであった。

終了後、委員長の榎田が1人ずつ名前を呼び、新入会員が返事をして10～13人程度で登壇し、理事長よりバッジを授与して頂いた。全員授与後、2016年度新入会員会長である尾川雄一君が決意表明を行った。

検証方法：メンバーと仮入会員へヒアリングを行い、意見を集めた。

効 果：

現役メンバーから、ラジオの寸劇をJCと絡めてよかった、CMソングも本格的でよかったと、手法の評価を高く頂いた事、そして何よりも、事業として、まちづくりとして実際に実現できるのではないかと評価を頂き、新入会員がJC活動で学

んできた事の具現化について熟度が高かったと伺える。新入会員も充実感、達成感に満ちたという意見が多く、本年度の集大成を現役メンバー、新入会員ともに成すことができた。また、厳粛な雰囲気の中で、神垣理事長よりバッジを授与して頂くことにより、晴れて正会員として認めて頂いた喜びを感じてもらうことができたのではないかと考える。



ラブライフ！委員会報告

ラブライフ！委員会
委員長 住井 雄一

〔スローガン〕 みんなで備える「まち」物語～防災意識の向上をめざして～

呉市という温暖な気候に恵まれた「まち」の中で、そこに暮らす人々の防災意識の希薄、欠如は仕方のないことかもしれない。

しかし防災に関する事業を展開し、この問題点を解消し、さらに住みよい「まち」へと変えていかななくてはならなかった。人一倍その危機意識が欠如している私が、である。

まず、災害はいつ襲ってくるか分からない中で、市民一人ひとりに対し、被災した状況をイメージすることの大切さを訴え、災害に備える意識を芽生えさせるために、他の防災イベントとは違うアプローチ方法はないだろうかと考え、リアル脱出ゲームなどで市民権を得ている謎解きゲームと防災イベントをコラボレーションさせ、参加者にはゲームを楽しみながらも防災に関する知識と意識が身につくような内容のリアルロールプレイングゲームを企画した。

呉ポートピアパーク全体を仮想世界に見立てたオリジナルストーリー「なまず大魔王を封印せよ！」では、なまず大魔王を封印するための謎解きに苦戦した参加者も少なくなかったが、小さな子どもから大人まで、楽しみながら防災体験ができたのではないだろうか。

しかし、この事業に参加しただけでは防災に対する意識や危機感が芽生えただけにすぎない。そもそも防災活動に終わりはなく、これをやったから助かるといった正解も保証もない。ただ言えるのは、的確な判断のものに行動するために意識と知識は日頃からイメージしながら備えておいて欲しい、ということはこの事業で伝えることができたと思う。

委員長という大役を仰せつかり、防災について全くの無知だった私は、一から防災について学んだ。そして様々な人の支えと協力を得ながら事業に向けて邁進した1年だった。事業に関わっていただいた全ての方々に感謝するとともに、この貴重な経験を今後の人生に活かしていきたいと思う。本当にありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：3月例会（第1部）『みんなで備える「まち」物語 ～始動～』

日 時：2016年3月7日（月）19：50～20：20

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

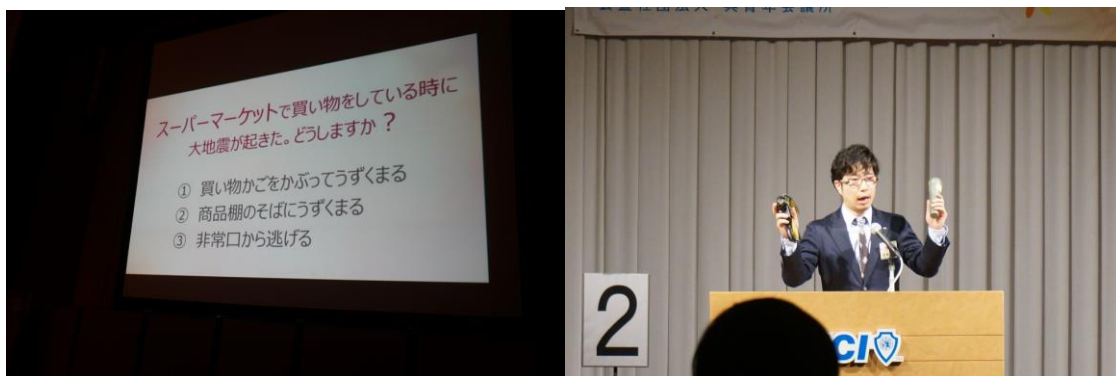
事業概要（方法）：

- ①地震が発生した直後の行動として、最も生存期待値が高い回答を選ぶ3択クイズを行った。
- ②災害対策を十分に行っていない現状について、問題点と原因は何かをPPを用いて説明した。
- ③防災グッズの選定について、災害発生時に使用するイメージを持つことの重要性を説明した。
- ④防災対策を行っていない場合の危険性を動画で確認してもらった。
- ⑤災害対策を行うために必要な観点は何かを説明した。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

3月例会の目的は、災害に対する危機意識が希薄であることを気づいてもらい、今後の事業への参加を促すことはもちろんだが、個々の防災対策の取り組み強化を図ることだった。実際に3択クイズの正解者の数は少なく、事前の準備や知識がなければ、いかに的確な行動をすることが難しいのかを理解してもらえた。また防災対策として防災グッズの準備についても、災害発生時をイメージすることの重要性を、防災グッズを用いて実演することで、より明確に理解してもらえた。



2. 事業名：8月例会

『みんなで備える「まち」物語 ～なまず大魔王を封印せよ！～』事業説明会

日 時：2016年8月1日（月）19：50～20：50

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

- ①事業当日をイメージしてもらえそうなVTRを用いて、謎解きゲームを仮想体験してもらった。
- ②3つの防災体験エリアで行う防災訓練を、メンバーに体験してもらった。
- ③各体験エリアでのメンバーの役割説明を行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効果：

参加者目線で謎解きゲームを仮想体験してもらうことで、全体の流れを理解してもらった。防災体験については、実際に設営側、参加側に分かれて体験してもらうことで、当日の役割について理解してもらうことが出来た。具体的には水消火器を用いた消火体験を行ってもらい、水消火器の扱い方を理解してもらった。暗闇体験では会場を暗転させて暗闇を作り、懐中電灯とヘッドライトを用いて作業を行ってもらい、どちらが作業しやすいかを比較することで、防災グッズを準備する時に重要なポイントである、災害発生時をイメージすることの大切さを理解してもらった。AED体験では訓練用のAEDを使用してもらい、誰でも簡単に使用することができることを理解してもらった。これらをメンバーに体験してもらうことで、当事業に参加した方々に、災害発生時に的確な判断のもと行動するためには意識と知識が必要だということを理解してもらうための事業だということを認識してもらった。



3. 事業名：みんなで備える「まち」物語 ～なまず大魔王を封印せよ！～

日時：2016年8月28日（日）10：00～18：00

場所：呉ポートピアパーク

協力団体：日本赤十字社 7名

呉市消防局 12名

タイムリー 下久 実

広島大学ナゾサークル「おにラビ」 6名

事業概要（方法）：

- ・呉ポートピアパーク全体を使ったオリジナル謎解きゲーム「なまず大魔王を封印せよ！」を行った。
- ・計7回の公演を1時間ごとに行い、制限時間120分のうちにクリアを目指してもらった。
- ・ストーリーに沿って謎解きを行ってもらい、途中で「消火体験」「暗闇体験」「AED体験」以上3つの防災体験を行ってもらった。その中で「消火体験」「暗闇体験」「AED体験」の防災体験を行った。
- ・最終問題にてなまず大魔王を封印してもらった。その後アニメーションエンディングムービーを見てもらい、今後の防災活動への啓発を行った。
- ・参加賞として、今事業について書き記した防災体験趣旨説明書、呉市災害対策メールパンフレットを入れたA4サイズのクリアファイルと、非常時持出袋を参加者全員に進呈した。

検証方法：参加者にアンケートを実施し、メンバーへヒアリングを行った。

効果：

参加者アンケートによると、

- ・謎解きゲームを楽しみながら防災の知識を得る事ができた
- ・防災意識が高まった
- ・災害が発生した時の事をイメージする事の大切さが分かった
- ・家族で改めて災害について話し合う機会を作ろうと思った

などの意見が集まったことから、目的としていた、楽しみながら防災の知識を得、意識を高めてもらうことが出来たと思う。また、防災体験は災害のプロフェッショナルとして呉市消防局、日本赤十字社の方々の協力のもと、より災害発生時や緊急時に的確な判断のもと行動できるよう指導をいただいた。

以上のことから、参加者には災害発生時の的確な判断と行動力、災害を最小限に抑えるための備えに必要なイメージ力が備わったと考える。そしてそれは今後の防災活動への一助となるものである。





みんなで作る「まち」 特別プロジェクト

謎解きゲーム

なまず大魔王を封印せよ!

みんなの知恵と勇気が真の未来を救う

謎解きゲームとは
 謎を解いてまちを救う。なまず大魔王の封印を解く。謎のカードをクリアしてまちを救う。みんなの知恵と勇気が真の未来を救う。謎解きゲームとは

2016
8/28 (日)

- 泉ポートピアパーク ● 無料
- 参加者全員に特製クリアファイルプレゼント!
- 申込み専用ページにて受付

※本大会の開催は雨天決行です。雨天の場合は中止となります。

第1日 11:00～ 第2日 11:00～ 第3日 11:00～ 第4日 14:00～ 第5日 15:00～ 第6日 15:00～

主催 JCF 全国自治体子ども未来推進協議会 実行委員会
 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク
 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク
 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク 協賛 泉ポートピアパーク

交流の架橋総務委員会報告

交流の架橋総務委員会
委員長 井田 大敬

[スローガン]

朋友友信
～仲間を信じて～

呉青年会議所は仲間と多くの時間を共有し、楽しい時には笑い、議論の時には本気でぶつかり合い、悩んだ時には仲間が手を差し伸べてくれるそんな素晴らしい団体だと経験してきました。そのような団体を継続維持していくために、メンバー間の絆の醸成、特に交流をテーマに活動してきました。

会員減少という問題に直面している中、メンバー間の絆がより強ければ退会を余儀なくされる人も残るのではと考え、例会の休憩中に極楽タイムという会員同士の交流の糸口となる時間を1月より12月までの間に計10回設けた。緊張感と規律ある例会と対比する緩さのある同好会・事業の告知や勧誘をすることで参加への敷居を低くし、会員同士の交流を活性化することを狙いとした。その結果、本年度退会者が1人も出なかった。

年間を通して、理想の委員長像とは程遠い右往左往する日々が続き、委員会メンバーだけでなく他の委員会メンバーに相談する日も少なからずあった。悩んだ時には仲間が手を差し伸べてくれ、時には叱咤激励を受けることもあったが、少しずつではあるが成長できたのではないかと思う。朋友友信、1年を通してこの言葉通り信頼がなければ乗り越えられなかった1年であったと思う。

最後まで委員長の我儘にお付き合いいただいたスタッフ・メンバーに感謝申し上げ報告とさせていただきます。

事業報告

1. 事業名：総会並びに例会運営

日 時：毎総会 毎例会

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

毎総会を円滑に進める為の資料作成、会場設営、受付、司会、議事録作成を担当し行った。毎例会において、会場設営、受付、運営、司会を行った。

J Cボックスに担当者を置き、規定に該当する場合、喜捨を求めた。

会員拡大の意識向上を高めるためにアカデミー委員長による進捗状況を発表した。

毎例会の休憩時間を利用し、メンバー間の交流が活性化するように努め、同好会や事業への積極参加を促す極楽タイムを行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

例会をJAYCEEとしての意識統一の場として組織・所属委員会の一員であることを自覚し、会員交流の活性化と会員拡大の意識が向上したと考えられる。



2. 事業名：次年度担当例会

日 時：2015年12月7日（月） 19：50～21：00

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

2016年度（公社）呉青年会議所の基本方針、活動指針を示し、役割、役柄、組織、人事、出向等についてメンバー間の意識を統一するため行った。

スローガンを除幕式にて発表し、次年度理事長の説明により全体の方向性を示した。

各委員会の紹介を行い、基本方針を説明した。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

除幕式の演出方法に考慮の余地はあったが、スムーズに進行し2016年度 公益社団法人呉青年会議所の基本方針、活動方針をメンバー全員で共有することができ、理事役員、出向者及び委員会の紹介を通じ、メンバーの意識統一を図る事ができた。



3. 事業名：1月第1例会（新年互例会）

日 時：1月9日（土）19：00～21：00

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：花柳佳雅京師範

事業概要（方法）：

2016年度（公社）呉青年会議所の理念と基本方針について行政や関係諸団体に直接伝えるために、理事長による挨拶を行い歓談中に本年度の理事役員紹介を行った。会に華を添えるために、オープニングアトラクションとして花柳佳雅京師範をお招きし新年の舞を披露していただいた。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

本例会をインパクトある例会とするために日本舞踊のアトラクションより始まる、和の舞台をコンセプトとして設営した。行政や関係諸団体だけではなく、多くの特別会員に対し、2016年度の基本的な方向性を神垣理事長より直接お伝えしていただき、合わせて本年度の組織や人事も紹介することができた。2016年度呉青年会議所と対外の行政、関係諸団体、特別会員との架橋を作ることができた。



4. 事業名：1月第2例会（第1部）

日 時：1月18日（月）19：50～20：20

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

委員会スタッフによるプレゼンテーションを行い、年間事業計画や本年度の説明を行った。最後に委員長の思いを伝えた。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

時間通りに終わり、内容も問題はなかったようだが演出を考えメンバーが聞きやすくなる仕掛けを考えてもよかった。しかしながら、会員同士の交流を活性化するという思いを伝えることができた。



5. 事業名：5月例会（高知合同例会）

日 時：5月14日（土）19：00～21：15

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

多くの高知メンバーに来ていただくために、招待状に各メンバーより一言メッセージを書いていただいて発送し、高知に実際に行き告知した。例会はオープニングVTRより始まり兄弟JCの歴史を回顧し、両理事長挨拶、特別会員代表者挨拶、高知シニア挨拶、本年度委員長による事業紹介を行った。懇親会では高知・呉メンバーを巻き込みながら極楽タイムを行い、交流を深めた。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効果：

2014年度を参考にして、事業紹介は高知側にも徹底周知のお願いしていたにもかかわらず、大幅に延びた。もう少し時間に余裕ある時間配分を行っておくか、例会時間の延長を行い、例会内でもしっかりと懇親を深めることができる設えにするべきだった。その後の極楽タイムや兄弟歌においても準備する時間に支障をきたしたので、時間配分や内容について精査しておかなければならない。呉JCと高知例会JCのこれからの連携を促し、今後より高度な地域貢献活動を展開するための確認やお互いの絆を醸成した合同例会となった。



6. 事業名：11月例会（創立記念日例会）

日時：11月11日（金）19：00～21：00

場所：クレイトンベイホテル

協力団体：J a p a n e s e D r u m 和 ☆ R o c k （6名）

事業概要（方法）：

（公社）呉青年会議所の創立以来の歴史を振り返ることで当団体の理念を再認識し、今後より高度な地域貢献活動を実現する目的で行った。

オープニングアトラクションとしてJ a p a n e s e D r u m 和 ☆ R o c k による和テイストのロック演奏で会場を温め、V T R で呉青年会議所の歴史を振り返った。その後、理事長挨拶、特別会員会代表者挨拶を行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

特別会員出席者が想定より少なく課題が残ったがスムーズに進行した。（公社）呉青年会議所の創立以来の歴史を振り返ることで当団体の理念を再認識することができた。



7. 事業名：12月第1例会

日 時：12月5日（月）19：00～21：00

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

次年度の基本方針をメンバー全員で共有することで、今後の地域貢献活動を展開する出発点とするため行った。セレモニーを担当し、休憩時間では次年度総務委員長へのエールを込めて最後の極楽タイムを行った。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

次年度の基本方針をメンバー全員で共有し、今後の地域貢献活動を展開する出発点となった。



8. 事業名：12月第2例会（卒業式・納会）

日 時：12月17日（土）18：00～21：00

場 所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：

卒業生の功績を讃えると共に、卒業生と現役メンバーの将来にわたる公益活動を喚起することで、明るい豊かな社会を実現するために行った。

卒業式は琥珀の間にて行った。卒業生の入場、理事長挨拶、経歴紹介、感謝状の授与を行い卒業生より一言挨拶をいただき送辞、答辞朗読を行った。納会は、天の間1・2を使用。理事長統括スピーチにて、本年度事業の報告と検証が行われた。続いて理事長・直前理事長バッジ交換、JC旗引継ぎ、次年度理事長挨拶を行った。

送別会は、卒業生の思い出の写真を取り込んだデジタルフォトフレームを席に配置した。卒業生の挨拶を行う前に神輿に乗って登壇していただき、一人ひとりの挨拶をいただいた。

検証方法：メンバーへヒアリングを行った。

効 果：

卒業式は厳かな雰囲気が保たれ、卒業生の功績を讃えることができた。また、事業報告を行うことで本年度の呉青年会議所の軌跡を把握し、かつ次年度以降により高度な地域貢献を実施するための一助となった。納会懇親会設営においては役割分担・役割説明がしっかりなされておらず、混乱をきたした。そのため、特別会員出席者名簿がきちんと配布されず大変失礼な対応となり、当日出席者の発表にもずさんな対応となった。また、卒業生の席札にも誤字がありこちらも失礼な結果となった。神輿による登場は盛り上がりも見せたが、メンバーの即座の対応をしていただいた結果である。

一年間絆の醸成をテーマに掲げて活動してきた結果、最後にメンバーの絆に助けをいただき卒業式・納会・送別会を乗り越えることができたことが今年の最大の効果だったと考える。



公益社団法人 吳青年會議所
會計報告書

自 2016年1月1日
至 2016年12月31日

貸借対照表

2016年12月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,144,570	5,246,311	-101,741
未収金	1,395,170	501,500	893,670
流動資産合計	6,539,740	5,747,811	791,929
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
周年事業積立資産	7,500,000	6,752,476	747,524
退職給付引当資産	2,148,000	2,094,000	54,000
特定資産合計	9,648,000	8,846,476	801,524
固定資産合計	9,648,000	8,846,476	801,524
資産合計	16,187,740	14,594,287	1,593,453
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	12,000	12,000	0
預り金	1,118,537	971,480	147,057
流動負債合計	1,130,537	983,480	147,057
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,148,000	2,094,000	54,000
固定負債合計	2,148,000	2,094,000	54,000
負債合計	3,278,537	3,077,480	201,057
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	12,909,203	11,516,807	1,392,396
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(7,500,000)	(6,752,476)	(747,524)
正味財産合計	12,909,203	11,516,807	1,392,396
負債及び正味財産合計	16,187,740	14,594,287	1,593,453

正味財産増減計算書

2016年1月1日から2016年12月31日まで

(単位:円)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	(0)	(0)	(0)
基本財産受取利息	0	0	0
受取入会金	(2,850,000)	(1,125,000)	(1,725,000)
受取入会金	2,850,000	1,125,000	1,725,000
受取会費	(12,405,000)	(12,735,000)	(-330,000)
普通会員受取会費	8,175,000	8,550,000	-375,000
特別会員受取会費	4,230,000	4,185,000	45,000
事業収益	(570,000)	(1,091,000)	(-521,000)
登録料収入	570,000	1,091,000	-521,000
受取補助金等	(462,165)	(400,000)	(62,165)
補助金収入	462,165	400,000	62,165
受取寄付金	(205,692)	(0)	(205,692)
寄付金収入	205,692	0	205,692
雑収益	(124,205)	(204,802)	(-80,597)
受取利息	2,805	3,719	-914
雑収入	121,400	201,083	-79,683
経常収益計	(16,617,062)	(15,555,802)	(1,061,260)
(2) 経常費用			
事業費	(10,441,238)	(10,502,372)	(-61,134)
給与手当	1,565,456	1,563,335	2,121
福利厚生費	341,889	426,123	-84,234
旅費交通費	212,060	523,560	-311,500
通信運搬費	220,345	343,031	-122,686
消耗品費	1,596,172	1,367,395	228,777
印刷製本費	1,374,813	800,120	574,693
燃料費	0	25,130	-25,130
光熱水料費	277,229	52,579	224,650
賃借料	665,688	665,688	0
保険料	16,500	48,344	-31,844
諸謝金	484,371	1,987,428	-1,503,057
支払寄付金	250,000	250,000	0
会場費	588,180	617,040	-28,860
レンタル料	943,442	882,453	60,989
記念品費	960,981	517,546	443,435
広告費	780,312	248,400	531,912
清掃費	136,800	64,800	72,000
退職積立繰入額	27,000	27,000	0
雑費	0	92,400	-92,400

正味財産増減計算書

2016年1月1日から2016年12月31日まで

(単位:円)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
管理費	(4,768,428)	(4,616,296)	152,132
給与手当	1,565,455	1,563,334	2,121
福利厚生費	269,889	263,600	6,289
会議費	185,180	223,320	-38,140
通信運搬費	278,431	328,612	-50,181
消耗品費	201,359	235,408	-34,049
印刷製本費	82,867	54,958	27,909
光熱水料費	47,228	52,580	-5,352
賃借料	665,688	665,688	0
租税公課	21,000	21,000	0
支払手数料	178,148	172,821	5,327
清掃費	64,800	64,800	0
図書費	163,500	160,750	2,750
諸会費	930,900	722,930	207,970
退職積立繰入額	27,000	27,000	0
雑費	86,983	59,495	27,488
経常費用計	(15,209,666)	(15,118,668)	(90,998)
評価損益等調整前当期経常増減額	【 1,407,396 】	【 437,134 】	【 970,262 】
評価損益等計	(0)	(0)	(0)
当期経常増減額	【 1,407,396 】	【 437,134 】	【 970,262 】
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	(0)	(0)	(0)
(2) 経常外費用			
会費等回収不能額	15,000	0	15,000
経常外費用計	(15,000)	(0)	(15,000)
当期経常外損益増減額	【 -15,000 】	【 0 】	【 -15,000 】
指定正味財産からの振替額	(0)	(0)	(0)
当期一般正味財産増減額	【 1,392,396 】	【 437,134 】	【 955,262 】
一般正味財産期首残高	11,516,807	11,079,673	437,134
一般正味財産期末残高	12,909,203	11,516,807	1,392,396
Ⅱ. 指定正味財産増減の部			
特定財産運用益			
預金利息収入	(0)	(0)	(0)
一般正味財産への振替額	(0)	(0)	(0)
当期指定正味財産増減額	【 0 】	【 0 】	【 0 】
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ. 正味財産期末残高	【 12,909,203 】	【 11,516,807 】	【 1,392,396 】

正味財産増減計算書内訳表

2016年1月1日から2016年12月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業等会計			収益事業等会計			法人会計	内訳取引済否	合計
	公1	共通	小計	他1	共通	小計			
I. 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
① 基本財産運用益	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
基本財産受取利息		0	0		0	0	0	0	0
② 受取入会金	(1,425,000)	(1,425,000)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,425,000)	(2,850,000)	(2,850,000)
受取入会金	1,425,000	1,425,000			0	0	1,425,000	2,850,000	2,850,000
③ 受取会費	(6,202,500)	(6,202,500)	(1,570,277)	(1,570,277)	(4,632,223)	(4,632,223)	(12,405,000)	(12,405,000)	(12,405,000)
普通会員受取会費	4,087,500	4,087,500	1,000,000	1,000,000	3,087,500	3,087,500	8,175,000	8,175,000	8,175,000
特別会員受取会費	2,115,000	2,115,000	570,277	570,277	1,544,723	1,544,723	4,230,000	4,230,000	4,230,000
④ 事業収益	(570,000)	(570,000)	(0)	(0)	(0)	(0)	(570,000)	(570,000)	(570,000)
登録料収入	570,000	570,000			0	0	570,000	570,000	570,000
⑤ 受取補助金等	(462,165)	(462,165)	(0)	(0)	(0)	(0)	(462,165)	(462,165)	(462,165)
補助金収入	462,165	462,165			0	0	462,165	462,165	462,165
⑥ 受取寄付金	(205,692)	(205,692)	(0)	(0)	(0)	(0)	(205,692)	(205,692)	(205,692)
寄付金収入	205,692	205,692			0	0	205,692	205,692	205,692
⑦ 雑収益	(0)	(0)	(0)	(0)	(124,205)	(124,205)	(124,205)	(124,205)	(124,205)
受取利息		0	0	0	2,805	2,805	2,805	2,805	2,805
その他収益		0	0	0	121,400	121,400	121,400	121,400	121,400
経常収益計	8,865,357	0	8,865,357	1,570,277	0	1,570,277	6,181,428	0	16,617,062
(2) 経常費用	(8,870,961)	(8,870,961)	(1,570,277)	(1,570,277)	(4,768,428)	(4,768,428)	(10,441,238)	(10,441,238)	(10,441,238)
事業費	1,565,456	1,565,456	72,000	72,000	0	0	1,565,456	1,565,456	1,565,456
給与手当	269,889	269,889	68,940	68,940	0	0	269,889	269,889	269,889
福利厚生費	143,120	143,120	29,851	29,851	0	0	143,120	143,120	143,120
旅費交通費	190,494	190,494	89,534	89,534	0	0	190,494	190,494	190,494
通信運搬費	1,506,638	1,506,638	495,360	495,360	0	0	1,506,638	1,506,638	1,506,638
消耗品費	879,453	879,453	0	0	0	0	879,453	879,453	879,453
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
燃料費	277,229	277,229	0	0	0	0	277,229	277,229	277,229
光熱水料費	665,688	665,688	0	0	0	0	665,688	665,688	665,688
賃借料	16,500	16,500	0	0	0	0	16,500	16,500	16,500
保険料	261,371	261,371	223,000	223,000	0	0	261,371	261,371	261,371
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000	250,000	250,000
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	330,960	330,960	257,220	257,220	0	0	330,960	330,960	330,960
会場費	943,442	943,442	0	0	0	0	943,442	943,442	943,442
レンタル料	648,209	648,209	312,772	312,772	0	0	648,209	648,209	648,209
記念品費	758,712	758,712	21,600	21,600	0	0	758,712	758,712	758,712
広告費	136,800	136,800	0	0	0	0	136,800	136,800	136,800
清掃費	27,000	27,000	0	0	0	0	27,000	27,000	27,000
退職積立繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	()	()	()	()	(4,768,428)	(4,768,428)	(4,768,428)	(4,768,428)	(4,768,428)
管理費	1,565,455	1,565,455	269,889	269,889	185,180	185,180	1,565,455	1,565,455	1,565,455
給与手当	269,889	269,889	68,940	68,940	0	0	269,889	269,889	269,889
福利厚生費	143,120	143,120	29,851	29,851	0	0	143,120	143,120	143,120
会議費	190,494	190,494	89,534	89,534	0	0	190,494	190,494	190,494
旅費交通費	1,506,638	1,506,638	495,360	495,360	0	0	1,506,638	1,506,638	1,506,638
通信運搬費	879,453	879,453	0	0	0	0	879,453	879,453	879,453
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	277,229	277,229	0	0	0	0	277,229	277,229	277,229
印刷製本費	665,688	665,688	0	0	0	0	665,688	665,688	665,688
燃料費	16,500	16,500	0	0	0	0	16,500	16,500	16,500
光熱水料費	261,371	261,371	223,000	223,000	0	0	261,371	261,371	261,371
謝礼金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000	250,000	250,000
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清掃費	330,960	330,960	257,220	257,220	0	0	330,960	330,960	330,960
図書費	943,442	943,442	0	0	0	0	943,442	943,442	943,442
諸会費	648,209	648,209	312,772	312,772	0	0	648,209	648,209	648,209
退職積立繰入額	758,712	758,712	21,600	21,600	0	0	758,712	758,712	758,712
雑費	136,800	136,800	0	0	0	0	136,800	136,800	136,800
経常費用計	27,000	27,000	0	0	0	0	27,000	27,000	27,000
当期経常増減額	8,870,961	0	8,870,961	1,570,277	0	1,570,277	4,768,428	0	15,209,666
2. 経常外増減の部	(-5,604)	0	(-5,604)	0	0	0	1,413,000	0	1,407,396
(1) 経常外収益									0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									0
会費等回収不能額							15,000		15,000
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	15,000	0	15,000
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	(-15,000)	0	(-15,000)
指定正味財産からの振替									0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	(-5,604)	0	(-5,604)	0	0	0	1,398,000	0	1,392,396
一般正味財産期首残高	7,052,641		7,052,641	0		0	4,464,166		11,516,807
一般正味財産期末残高	7,047,037		7,047,037	0		0	5,862,166		12,909,203
III. 指定正味財産増減の部									0
一般正味財産への振替									0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高									0
指定正味財産期末残高	0		0				0		0
IV. 正味財産期末残高	7,047,037		7,047,037	0		0	5,862,166		12,909,203

財務諸表に対する注記

I 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
【特定資産】				
周年事業積立資産	6,752,476	1,125,000	377,476	7,500,000
退職給付引当資産	2,094,000	54,000	0	2,148,000
合計	8,846,476	1,179,000	377,476	9,648,000

特定資産の財源の内訳

特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
【特定資産】				
周年事業積立資産	7,500,000	—	7,500,000	
退職給付引当資産	2,148,000	—	—	2,148,000
合計	9,648,000	—	7,500,000	2,148,000

II 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額
受取市補助金	呉市	0	400,000	400,000
受取補助金	広島ブロック協議会	0	62,165	62,165
合計		0	462,165	462,165

III その他

- ・未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が全く確認されないものを計上処理している。

附属明細書

I 基本財産及び特定資産の明細
注記に記載しているため、省略する。

II 引当金の明細 (単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,094,000	54,000	0	0	2,148,000

財産目録
2016年12月31日現在

(単位:円)


貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	683,770
	預金	【普通預金】 呉信用金庫本店営業部 呉信用金庫本店営業部 呉信用金庫本店営業部 もみじ銀行呉営業部 広島銀行呉支店	No0456381; 運転資金として No1011799; 運転資金として No1039248の一部; 運転資金として No2248674; 運転資金として No0599404; 運転資金として	660,828 899,360 1,575,564 103,265 1,221,783
			〈現金・預金計〉	5,144,570
	未収金	普通会员18名 特別会員12名	当会計期間内に会員が納入すべき会費・入会金の未収分である	1,395,170
			〈未収金計〉	1,395,170
流動資産合計				6,539,740
(固定資産)	特定資産	周年事業積立資産	【定期預金】 呉信用金庫本店営業部 【普通預金】 呉信用金庫本店営業部	No0067878 6,750,000 No1039248の一部 750,000 周年事業の積立資産として管理している
		退職給付引当資産	【定期預金】 広島銀行呉支店	No3045298 2,148,000 職員退職給付の引当資産として管理している
			〈特定資産計〉	9,648,000
固定資産合計				9,648,000
うち特定資産				9,648,000
資産合計				16,187,740
(流動負債)	未払金	空本印刷所	2016年度事業報告書作成費	12,000
	預り金	普通会员 社会保险料・源泉 所得税・市民税	普通会员個人が負担すべき例会食事代及び登録料等の支払いのための預り金である	928,530 190,007
			〈未払金・預り金計〉	1,130,537
流動負債合計				1,130,537
(固定負債)	退職給付引当金	職員分	【退職給付引当金】 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の退職給付金	2,148,000
			〈退職給付引当金計〉	2,148,000
固定負債合計				2,148,000
負債合計				3,278,537
正味財産				12,909,203

監査報告書

公益社団法人 呉青年会議所
理事長 神垣 良子 殿

2017年1月19日

公益社団法人 呉青年会議所

監事 折口 篤 志 

監事 藤 野 佳 

私たち監事は、2016年1月1日から2016年12月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備を努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

- (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果計算書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

公益社団法人 呉青年会議所
理事長 神垣 良子 殿

2017年1月19日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所
監査人・税理士

武安 紘二



上記、公益社団法人呉青年会議所2016年度収支決算報告書に関して本職は補助者2名をもって、公益社団法人呉青年会議所会計全般における現金の実査、預貯金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類、関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正・適法に処理が為されて且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。



公益社団法人 呉青年会議所

事務局 〒737-0045 呉市本通4丁目8番12号 呉商工会議所ビル南館内7F 704

TEL (0823) 21-1081 FAX (0823) 21-0800

<http://www.kure-jc.or.jp/> e-mail info@kure-jc.or.jp